

平成6年度版

# こころの健康センター所報

三重県こころの健康センター  
(精神保健福祉センター)

## はじめに

阪神・淡路大震災に始まり、オウム真理教事件と、平成7年の前半は物情騒然とした日々が続きました。誰もが世紀末を思わせられる、暗澹たる気分に見られると同時に、豊かな社会の脆い一面に触れ、各々の生を改めて見つめ直したことはないでしょうか。

被災された方々の心の側面へのケア、若者の間のカルトの流行に見られる、終末的な時代気分、莫とした閉塞感など、精神保健の領域で仕事をする我々にとっても、考えさせられることの多い毎口でした。

実際、センターでの仕事を通して見ても、家庭、学校、職場、地域から心の軋みが聞えてくるかのように感じられる時があります。生まれてから、生を終えるまでの心の健康づくりは、今後ますます切実な地域社会のニーズとなるでしょう。

一方、精神保健法が再改正され、精神保健福祉法として、精神障害者にも福祉が導入されることになりました。

精神障害者の病者としての対策に加えて、生活障害者としての対策が講じられたことは、精神障害者の地域ケア、地域リハビリテーションにとっても大きな進歩と思われれます。

三重県の地域精神保健を見ても、ようやくデイケア、共同作業所、家族教育、ボランティア養成、精神保健連絡会などが、地域ごとに整備され、初歩的なサポート・システムが動き始めました。この中で支えられ、障害を持ちながらも、それなりの生活を作っていく人たちが増えていくことが期待されます。

最後になりましたが、センター事業につきましては、平成6年度も順調に推移しました。また法改正に伴い、平成7年7月からは「精神保健福祉センター」と名称変更することとなりました。精神障害者福祉が新しい業務として付け加えられたことや、地域保健福祉行政の再構築が進行中であることなど、我々のセンターも今後のあり方について、検討を進める必要があるかと思っております。関係各位におかれましてもさらなるご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

平成7年初秋

三重県こころの健康センター

所長 原田 雅典

# 目 次

はじめに

I. こころの健康センター概要	1
1. 沿革	1
2. 業務	1
3. 施設の概要	2
4. 組織及び職員	3
II. こころの健康センターの活動	5
1. 技術指導援助	5
2. 教育研修	9
3. 広報啓発	15
4. 調査研究	19
5. 協力組織の育成	29
6. 心の健康づくり推進	35
7. 精神保健相談	45
III. こころの健康センター図書目録	53

# I. こころの健康センター概要

1. 沿 革
2. 業 務
3. 施 設 の 概 要
4. 組 織 及 び 職 員

## 1. 沿革

### ○ 昭和61年5月

三重県こころの健康センター（精神保健センター）は精神保健法第7条の規定に基づき、地域精神保健活動の技術的中枢機関として、三重県津庁舎津保健所棟1階（津市桜橋3丁目446-34）に開設され、保健環境部保健予防課の分室としてスタートする。

初代所長 原田雅典氏就任。

精神科医師1名、看護婦1名、保健婦1名、事務職1名、計4名の常勤職員が配置される。他に、電話相談員（嘱託）2名配置される。

### ○ 昭和62年4月

精神科ソーシャル・ワーカー（PSW）が初めて配置される。

### ○ 昭和63年10月

三重県久居庁舎（久居市明神町2501-1）の完成に伴い同1階に移転する。

### ○ 平成元年4月

県の出先機関として独立

心理技術者（CP）が初めて配置される。

### ○ 平成6年4月 精神科医師1名増員。

## 2. 業務

当こころの健康センターは、「精神保健センター運営要領」（衛発第194号厚生省公衆衛生局長通知、昭和44年3月24日）に基づき、次の業務を行っている。管轄は、県下全域である。

### (1) 技術指導援助

地域精神保健活動を推進するために、保健所及び関係諸機関に対し、専門的立場から、積極的な技術指導ならびに技術援助を行なう。

### (2) 教育研修

保健所で精神保健業務に従事する職員（精神保健担当者、保健婦等）に専門的研修と技術指導を行うほか、関係諸機関の職員には、教育訓練を行い、関係職員の技術的水準の向上を図る。

### (3) 広報啓発

一般住民に対する精神保健知識の普及啓発を行うとともに、保健所が行う広報普及活動に対して専門的立場から指導と援助を与える。

### (4) 調査研究

地域精神保健活動を推進するために、必要な精神保健上の諸問題を調査研究するとともに、精神保健に関する統計及び資料を収集整備する。

### (5) 協力組織の育成

地域精神保健の向上を図るために、精神医療施設や保健所その他の関係諸機関を単位としてつくられた協力組織の育成を図るとともに、他方、都道府県単位の組織を育成強化することに努め、地

域精神保健活動に対する住民の協力参加や各種社会資源の活用を円滑に行う。

(6) 心の健康づくり推進

近年の社会生活環境の複雑化に伴い県民各層の間において、ストレスが増大し、ノイローゼ、うつ病等の精神疾患が増加している。これらの精神疾患に関する相談窓口の設置、精神保健に関する知識の普及等を行うことにより住民の精神的健康を図る。

(7) 精神保健相談

保健所並びに関係諸機関が取り扱った事例のうち、複雑又は困難なものにつき実施する。また、これらのほか、一般住民の心の健康の保持、向上のために専門的な立場から相談指導を行う。

3. 施設の概要

(1) 所在地

[昭和61年5月1日～昭和63年10月8日]

三重県津市桜橋3丁目446-34 三重県津庁舎津保健所棟1階

[昭和63年10月9日以降]

三重県久居市明神町2501-1 三重県久居庁舎1階

(2) 施設の状況

[昭和61年5月1日～昭和63年10月8日]

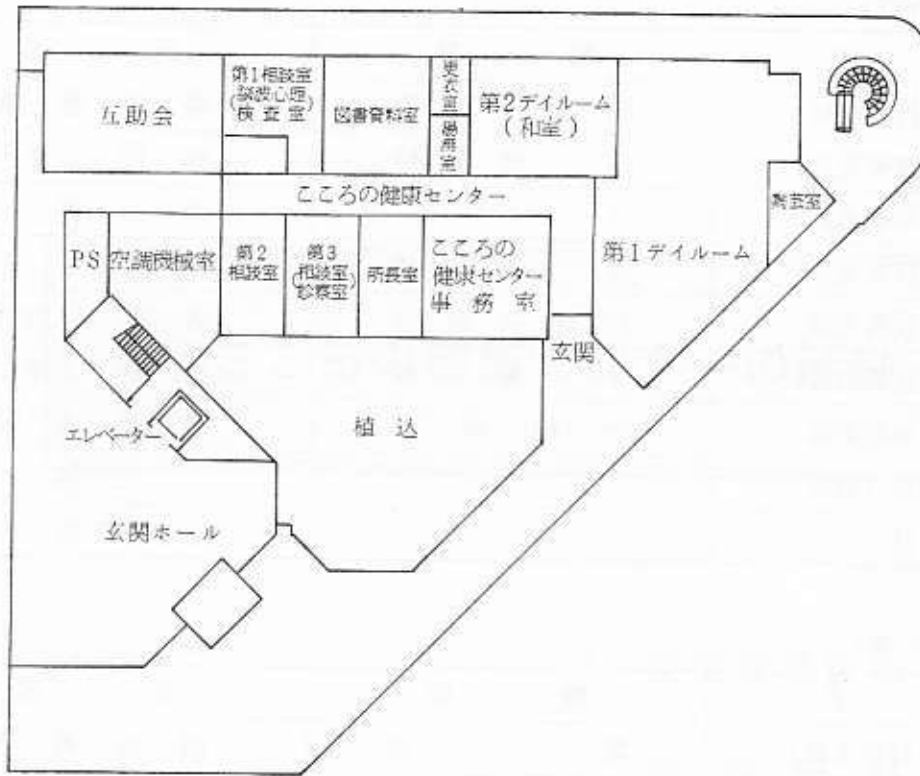
三重県津庁舎津保健所棟1階 1室 52.9㎡

[昭和63年10月9日以降]

三重県久居庁舎1階

ア	敷地面積（久居庁舎）		11,617.29	㎡
イ	建物面積（本館棟）	延床面積	5,484.50	
ウ	建物構造（本館棟）	鉄筋コンクリート造4階建、一部5階建		
エ	当センター占有面積		723.0	
オ	各室面積			
	事務室（電話相談室、所長室）	65.2	第1デイルーム	140.4
	第1相談室（脳波、心理検査室）	30.8	第2デイルーム（和室）	44.8
	第2相談室	23.9	陶芸室	11.3
	第3相談室（診察室）	26.5	更衣室、湯沸室	12.0
	図書資料室	37.0	各室面積 計	391.9

三重県こころの健康センター平面図



4. 組織及び職員

所掌事務



職員構成

[平成6年度]

職 名	職 種	氏 名
所 長 (技術吏員)	医 師	原 田 雅 典
副参事 (技術吏員)	保 健 婦	倉 田 つや子
主 幹 (事務吏員)	ソーシャルワーカー	堀 田 重 行
主 幹 (技術吏員)	医 師	松 崎 ま み
主 査 (技術吏員)	心 理 技 術 者	久 保 早百合
主 査 (技術吏員)	保 健 婦	橋 合 英津子
主 事 (事務吏員)	一 般 事 務	小 堀 義 明
電話相談員 (嘱託)		2 名
計		9 名

[平成7年度]

職 名	職 種	氏 名
所 長 (技術吏員)	医 師	原 田 雅 典
副参事 (技術吏員)	保 健 婦	倉 川 つや子
主 幹 (事務吏員)	ソーシャルワーカー	堀 田 重 行
主 幹 (技術吏員)	医 師	松 崎 ま み
主 査 (技術吏員)	心 理 技 術 者	久 保 早百合
主 査 (技術吏員)	保 健 婦	橋 本 晴 美
主任主事 (事務吏員)	一 般 事 務	林 いっ子
電話相談員 (嘱託)		2 名
計		9 名



## Ⅱ. こころの健康センターの活動

1. 技術指導援助
2. 教育研修
3. 広告啓発
4. 調査研究
5. 協力組織の育成
6. 心の健康づくり推進
7. 精神保健相談

## 1. 技術指導援助

＜技術指導援助＞

地域精神保健活動の推進を図るため、保健所をはじめとした関係諸機関および団体に対し、その要請に応じて事例検討会・ケースコンサルテーション・研修会での講演、講義等技術指導援助を実施している。

平成6年度の技術指導援助は、530回であった。指導回数は前年度と変わらず、経年的に見ると横這い状態といえる。

指導機関別の指導状況をみると、保健所への指導が一番多く、全体の37.5%を占めており、次いで教育機関、行政機関、医療機関となっている。特に教育機関への指導回数の増加が目立っている。

保健所への指導援助回数は、事例検討会や社会復帰相談指導事業等199回であり、前年度とほぼ同数となっている。

保健所での事例検討会は、34回開催され38例について検討された。また、地域における精神保健対策事業の企画に関する助言指導や地域精神保健連絡会議への参加の機会が増えてきている。

平成6年度 技術指導援助実施状況

	実施回数	参加人数	指導援助内容					職種別援助回数			
			ケース援助	事例検討会	デイケア	研修会 健康教育	その他	医師 (2名)	ソーシャル ワーカー (1名)	保健婦 (2名)	心理技師 (1名)
保健所	199	1,924	15	34	22	15	113	56	27	87	67
福祉機関	43	319	8			4	31	11	6	6	23
医療機関	46	157	8				38	14	3	6	26
行政機関	72	186	1				71	35	5	17	15
教育機関	80	1,941	25			5	50	34			24
市町村	32	110	13			1	18	6	1	12	14
労働機関	10	14	2				8	2	1	3	4
司法機関	—	—									
精神保健団体	22	162	8				14	3		11	8
学生教育実習	22	1,308					22	20	1	3	1
その他	4	4					4			3	1
計	530	6,125	80	34	22	25	369	181	44	148	183

保健所への技術指導援助実施状況（再掲）

保健所	実施回数	参加人数	指導援助内訳					職種別援助回数			
			ケース援助	事例検討会	デイケア	研修会 健康教育	その他	医師 (2名)	ソーシャル ワーカー (1名)	保健婦 (2名)	心理技術者 (1名)
桑名	15	143		3	2	1	9	9	2	5	4
四日市	14	211	1	4	4		5	4	2	5	6
鈴鹿	22	214		2	4	1	15	4	2	15	5
津	32	155	4	4	1		23	6	4	15	13
久居	13	65	4	2		2	5	6		5	7
松阪	12	224			3		9	2	5	6	1
伊勢	23	249	4	2	3	2	12	2	5	5	14
志摩	18	165		4	2	1	11	6	3	9	2
上野	23	208	2	7		4	10	6	2	11	6
尾鷲	19	157		4	3	3	9	6	2	7	7
熊野	8	133		2		1	5	5		4	2
計	199	1,924	15	34	22	15	113	56	27	87	67

平成6年度 保健所事例検討会における検討事例

保健所名	実施月日	事 例
桑 名	6. 5. 19	不安神経症患者への支援
	6. 7. 22	アルコール依存症患者への支援について
	6. 10. 28	長期入院をへて社会復帰した精神分裂病患者への支援
四 日 市	6. 7. 27	母との接触で病状悪化するケースとかかわって
	6. 9. 27	家族とうまく関係が持てないケースにかかわって
	7. 1. 24	アルコール依存症の家族へのかかわり
	7. 2. 20	生活意欲のない家族へのかかわり
鈴 鹿	6. 6. 29	病識のない精神分裂病患者へのかかわり
	6. 10. 6	精神分裂病患者・家族と地域のかかわり
津	6. 5. 24	障害児をかかえる母親への援助
	6. 7. 26	退院受入れの悪い家族をもつケースとその家族への支援
	6. 11. 22	通リハ事業を通して社会復帰をしようとするケースへの支援
	〃	暴言、暴力をくり返すケースへの支援
	7. 1. 24	経済的に困っているケースへの支援
久 居	6. 8. 3	問題行動を重ねる非定型精神病のケースとかかわって
	6. 11. 24	一人暮らしの分裂病患者とかかわって
伊 勢	6. 7. 5	「働きたい」と言いつつ就労できないケースの援助
	6. 10. 25	自分を肯定できず常に悩み苦しみ、具体的な解決へとつながっていかないケースへのかかわり
志 摩	6. 7. 12	单身ケースを地域で支えるために
	6. 10. 11	自閉生活が続く治療につながりにくいケースへの支援
	6. 12. 6	地域情報から医療につながったケースの援助
	7. 1. 10	病識がなく治療が長続きしない分裂病の主婦の場合
上 野	6. 6. 30	長期に亘る入院生活から在宅生活を支援していくために
	6. 8. 5	他人と感情交流をもち難い精神病患者にかかわって

保健所名	実施月日	事 例
上 野	6. 10. 14	幼い母親への育児支援 —イラつき、子供を虐待するケース—
	6. 11. 2	4年前から家に閉じこもっているケースへのかかわり
	6. 12. 26	作業所通所が継続できなかったケースの今後のかかわりかた
	7. 2. 1	デイケア作業への参加ができなくなったケースへの今後の対応
	7. 3. 15	対人障害による閉じこもりのケースの今後のかかわり
尾 鷲	6. 5. 17	心気症状を訴える母親への援助について
	6. 7. 19	産後うつ病の背景に夫婦間葛藤があるケースへのかかわり
	6. 11. 15	被害妄想のある独居老人へのかかわり
	”	母子関係に問題のあるケースへのかかわり
	7. 1. 17	デイケア「黒潮会」の現状と課題
熊 野	6. 8. 25	痴呆患者をかかえる家族への支援
	”	精神的に不安定な独り暮らしの女性の処遇
	7. 2. 23	働き盛りの精神病患者における退院後のフォローについて
	”	精神分裂病患者の社会復帰援助

## 2. 教 育 研 修

- (1) 研 修 会
- (2) 学生の教育実習等

昭和61年5月、県保健予防課分室として開設された当センターは、主に保健衛生機関の職員を中心とした研修会を実施してきた。

平成元年4月1日付けで県の出先機関としてスタートし本格的に活動を開始した。三重県における精神保健の向上を図る総合的な技術中枢機関としての立場から保健衛生関係外の関連諸機関を対象とした研修を実施している。

平成6年度も昨年同様、8本の柱で実施した。福祉、教育、医療、労働、司法等、精神保健推進のため、関連のある機関との連携も教育研修を機として深まってきていると感じる。

又、センターの整備に伴い見学、実習等も増加した。この見学、実習が精神保健活動への理解を深める機になればと願っている。

教育研修、見学、実習等の実施状況は表のとおりである。又、各々の教育研修については後に詳しく述べる。

#### 平成6年度 教育研修実施実績

##### 1) 研 修 会

教育研修名	実施日	受講対象	受講者数
新任精神保健担当者研修会	平成6年5月11日	市町村、県・市福祉事務所、保健所の関係者	46名
精神保健事例検討会	平成6年9月22日	教育関係者	47
児童(青年)精神保健研修会	平成6年8月12日 8月23日	福祉、教育、医療、保健衛生、精神保健団体、その他の関係者	334 229
酒害保健研修会	平成6年11月9日	福祉、医療、労働、保健衛生、精神保健団体、その他の関係者	49
地域精神保健研修会	平成7年2月17日	福祉、教育、医療、労働、保健衛生、精神保健団体、その他の関係者	139
精神保健専門講座 (精神保健相談員継続研修会)	平成6年7月20日 21日 8月9日 10日	市町村、県・市福祉事務所、保健所の関係者	49
老人精神保健研修会	平成6年6月16日 11月13日	福祉、医療、保健、老人施設、その他の関係者	231 147
社会復帰指導者研修会	平成6年9月～ 平成7年3月 月曜日 年22回	保健所精神保健担当者	104

計34回 1,375名



(2) 学生の教育実習等

受講者名	実施回数	受講者数
三重大学精神神経科新入局員	1	6
三重県立看護短期大学1年生・専攻科地域看護学専攻生	17	1,216
三重大学医学部専門課程2回生・4回生	6	108
同 朋 人 学 生	1	3
消 防 学 校	1	74

計26回 1,407名

(ア) 新任精神保健担当研修会

精神保健についての概要を理解し、地域に於ける精神保健活動の推進を図る。

日 程	内 容
平成6年5月11日(水) 10:00~16:30	<p>I. こころの健康センター事業概要 センター主幹 堀 田 重 行</p> <p>II. 講義</p> <p>① 精神保健のあらまし センター所長 原 田 雅 典</p> <p>② 精神保健相談のすすめ方 センター主査 久 保 早 百合</p> <p>③ 精神障害者の就労 三重障害者職業センター主任カウンセラー 小 林 寛</p> <p>④ 地域における精神保健活動 センター副参事 倉 田 つや子</p>

(イ) 精神保健事例検討会

不登校の事例を通して現代の中、高校生のもつ心の問題を知り、学校保健における精神保健活動のあり方について考える。

日 程	内 容
平成6年9月22日(木) 13:30~16:30	<p>事例名 「不登校(登校拒否)」</p> <p>事例提供者 桑名市教育研究所長 門 脇 貴 男</p> <p>助言者 三重県立小児心療センター あすなる学園医長 齊 藤 聡 明</p>

(ウ) 児童（青年）精神保健研修会

講義、事例検討等をおして今、子どもの中に起っているいじめ、非行、不登校、自殺、家庭内暴力等の問題や「性」について考え、今後のあり方について検討する。

日 程	内 容
平成6年8月12日（金） 10：00～16：30	講演 「自閉症者の行動をどうとらえるか」 講師 福井大学教育学部 熊谷高幸
	講演 「家族問題の現在」 講師 名古屋市児童福祉センター 滝川一廣
	講演 「思春期精神保健における養護教諭の役割」 講師 三重県小児心療センターあすなろ学園長 清水將之
平成6年8月23日（火） 13：00～15：30	講演 「いまどきの若者を考える」 講師 三重県小児心療センターあすなろ学園長 清水將之

(エ) 酒害保健研修会

アルコール依存症は年々増加の傾向にあり、世界的にも大きな社会問題となっている。

また、アルコールに起因する問題は多岐に亘り多くの家族崩壊をきたしている。

アルコール依存症について適切な支援が展開できるよう関係者がその病理について正しく理解することが大切である。

アルコール依存症の予防と早期治療をめざして、依存症者とその家族を支援していくうえでの方策を考えることを目的とした。

日 程	内 容
平成6年11月9日（水） 14：00～16：00	講演 「職場のアルコール問題」 講師 ヒューマンマスクケア役員 水澤都加佐

(オ) 地域精神保健研修会

精神保健法の改正や障害者基本法の成立に伴い、精神保健対策の中でも特に精神障害者の社会復帰対策の推進が強調され、国や都道府県はもとより関係諸団体、地域住民等あらゆる関係者が、精神障害者をとりまく様々な問題に対する理解を深め、精神障害者の社会復帰・社会参加への積極的な支援が求められている。

このような状況の中で、地域における精神障害者の社会復帰対策をさらに推進しその充実を図るための課題と今後のあり方について考える。

日 程	内 容
平成7年2月17日(金) 13:30~15:30	講演 「精神障害者の社会復帰対策——その課題と展望——」 講師 東京都立大学社会福祉学科 大島 巖

(カ) 精神保健専門講座(精神保健相談員継続研修会)

精神保健相談員の資質向上を図ることにより、地域精神保健活動の推進に寄与することを目的とする。

日 程	内 容		
	10:00~12:00	13:00~	14:30~16:00
平成6年 7月20日(水)	心理トレーニング 日本女子大学人間社会学部社会福祉学科 教授 増野 肇		
7月21日(木)	「地域ケアをめぐる」 こころの健康センター 所長 原田 雅典	「SSTの活用について」 高茶屋病院 臨床心理士 榊原 規之	「精神保健相談員としての保健婦の役割」 こころの健康センター 副参事 倉田 つや子
8月9日(火)	「精神障害者の職業 リハビリテーション」 障害者職業センター 主任カウンセラー 小林 寛	「就労ゼミについて」 久居病院 副院長 棚橋 裕	「精神障害者の法的 制度の活用について」 高茶屋病院 PSW 山崎 晴彦
8月10日(水)	心理トレーニング 日本女子大学人間社会学部社会福祉学科 教授 増野 肇		

(キ) 老人精神保健研修会

高齢者人口の増加に伴って、痴呆性老人の増加が予測されている。とりわけ、痴呆老人のケアは介護者の身体的、精神的負担は大きい。

一方、地域においては、家族の介護力が低下している現在、施設型サービスだけでなく在宅ケアサービスの充実強化が望まれている。

特有の精神症状や問題行動を起こす痴呆性老人とその家族のニーズにあった適切な支援ができるよう、地域における在宅ケアのあり方について考える。

日 程	内 容
平成6年6月16日(木) 18:00~20:00	<p>&lt;講演&gt;座長：井上 桂 三重大学精神科助教授</p> <p>1. 「津地区医師会の訪問看護－1年半の活動を振り返って」 西川 利恵 津地区医師会訪問看護ステーション 婦長</p> <p>2. 症例報告「どんな時精神科医が呼ばれるか－せん忘の治療－」 中瀬 令子 済生会松阪総合病院 医長</p> <p>&lt;特別講演&gt;座長：葛原 茂樹 三重大学神経内科教授 「東京、下町の訪問医療 18年」 増子 忠道 柳原病院 院長</p>

(ク) 社会復帰指導者研修会

保健所における社会復帰相談事業にかかわる職員の技術向上を図るため、さまざまな複雑困難な事例を対象に、技術的方法、処置、援助方法等を実習、理論的研修を通じて学び、今後の精神保健業務に幅広く対応できる職員の養成を図ることを目的とした。

実施方法は3ヶ月を1クールとして年2回実施した。

各回の受講者は次のとおりである。

	第 一 回		第 二 回	
	平成6年9月～11月		平成6年12月～平成7年2月	
受 講 者	四 日 市	稲 垣 美登利	鈴 鹿	近 成 久美子
	鈴 鹿	関 岡 早由美	津	中 山 千代芳
	松 阪	高 見 貴 代	松 阪	中 島 博 子
	伊 勢	花 井 恵美子	熊 野	田 邊 順 子
	上 野	中 尾 裕 美		

また、受講者に対してのプログラムは次のとおりである。

社会復帰指導者研修会プログラム

内容	開催回数	第 一 回	第 二 回
	開催月	平成6年 9月 ~ 11月	平成6年 12月 ~ 平成7年 2月
オリエンテーション		1 (単位)	1 (単位)
集団指導実習		11	11
生活技術指導実習		4	3
作業指導実習		4	6
専門講義		2	1
計		22 (単位)	22 (単位)

※1単位4時間とする。

### 3. 広 報 啓 発

- (1) パンフレット
- (2) センターだより「こころの健康」の発行
- (3) 見学者の受け入れ指導
- (4) 講演会、講義、座談会等

一般県民に対する精神保健知識の普及啓発を目的とし、下記のとおり事業を実施した。

(1) パンフレット

今年度は精神保健パンフレットとして、「職場のメンタルヘルス」を作成、各関係機関に配布した。  
また、最近の社会資源を追加し、「地域精神保健活動への手引き」の改訂版を作成し、各関係機関に配布した。

・職場のメンタルヘルス	2,000部
・地域精神保健活動への手引き	1,000部

(2) センターだより「こころの健康」の発行

今年度も、3回（No23～25）発行し、関係諸機関へ配布した。各号の内容は、下記のとおりである。

発行年月日	内 容	執 筆 者
No23 平成6年 6月20日	「ゆとり」と「ストレス」  コミュニティハウス「オレゴン」の開所にあたって —地域生活支援センターへの第一歩—  <デイケア紹介> こちら松阪保健所デイケアです  保健所における精神保健ボランティア養成講座 私の心の健康法	三重県保健環境部長 大井田 隆  四季の里 作業所運営委員会 (地域生活支援センター) 代表 福原正幸  松阪保健所保健指導課 井端由加 上野保健所保健指導課長 小坂みち代  松阪市 伊藤節子
No24 平成6年 10月20日	特集：保健所における精神保健活動  保健所って何する所？ —これからの保健所精神保健活動—  これからの保健所と精神保健活動  県下各保健所における精神保健活動	津保健所長 佐甲 隆  四日市保健所主幹 青鳥昭子  各保健所 保健指導課長

発行年月日	内 容	執 筆 者
№24 平成6年 10月20日	<p>&lt;作業所紹介&gt; ワークルーム桑友の開所にあたって</p> <p>&lt;家族会紹介&gt; 国立療養所榊原病院内家族会 「ななくり会」誕生 むつみ会です。始めまして!!</p> <p>私の心の健康法</p>	<p>ワークルーム桑友 鈴木 平</p> <p>ななくり会代表 平澤 雄一</p> <p>松阪厚生病院家族会 むつみ会会長 須川 雅</p> <p>久居保健所長 岡田 英昭</p>
№25 平成7年 2月20日	<p>特集：福祉事務所と精神保健活動 地域と共にある暮らしを 一障害問題で思うこと— 福祉事務所と精神保健活動</p> <p>”</p> <p>福祉事務所における被保護精神障害者への 取組みについて</p> <p>&lt;デイケア紹介&gt; 鈴鹿厚生病院デイケア開設</p> <p>はじめまして、 志摩保健所デイケアです</p> <p>私の心の健康法</p>	<p>北勢福祉事務所長 重盛 眞夫</p> <p>四日市市社会福祉事務所保護課長 羽木 昇</p> <p>南勢志摩福祉事務所保護二課 松本 成尊</p> <p>中勢福祉事務所保護一課 大西 知幸</p> <p>鈴鹿厚生病院看護婦 柏葉 球枝</p> <p>志摩保健所保健指導課 中西 園弓</p> <p>朝日新聞津支局記者 山本 潤子</p>

### (3) 見学者の受け入れ指導

三重大学医学部学生等の見学実習の場として活用され、当センターの事業をとおして精神保健活動についての理解を深めていただくためのよい機会となった。

#### 平成6年度見学者

受 講 者 名	実 施 回 数	受 講 者 数
三重大学精神神経科新入局員	1	6
三重大学医学部専門課程2回生・4回生	6	108
同朋大学生	1	3
消防学校	1	74

計191名



#### (4) 講演会、講義、座談会等

精神保健に関する知識の普及啓発を目的とし、関係諸機関からの要請により実施した。

今年度の講演等の実施回数は38回で、対象者は1,562名であった。講演等の内容は、ライフサイクルにおける心の健康、職場や地域における精神保健、精神障害者の社会復帰など多岐にわたっている。

また、派遣先もその領域が広がり、多方面からの要請が増え、今後ますますセンターへの期待が大きくなっていくことが予想される。

#### 平成6年度 他機関から依頼の講演会等

月 日	名 称	内 容	対 象 者	主 催	派 遣 者
H6 4. 27	地域家族会「ときの会」研修会	講演「メンバーさんへの接し方」	ときの会会員 でのひら会員 24名	ときの会	保健婦
5. 20	主任児童委員研修会	講演「相談活動の実際」	主任児童委員 32名	四日市市社会福祉事務所	臨床心理士
6. 16		講義「センター事業の概要」	同朋大学学生 3名	中勢福祉事務所	精神科ソーシャルワーカー
6. 21	平成6年度 家族教室	講演「家族の役割を考える」	家族、保健婦 17名	尾鷲保健所	臨床心理士
6. 30	校種別研修講座	講演「職場のメンタルヘルス」	管内教職員 40名	伊勢市教育委員会	医師
7. 5	精神保健研修会	講演「こころの病をもった人を理解するために」	管内保健、福祉関係職員 90名	熊野保健所	医師
7. 9	精神保健市民講座	講演「センター活動と精神障害者の社会復帰」	市民、四精連会員 50名	四日市市精神障害者連絡協議会	医師
7. 14	認定職業能力開発校指導員研修会	講演「心の健康～職場のメンタルヘルス～」	指導員、講師等 40名	三重県職業能力開発協会	医師
7. 18	健康管理研修会	講演「心の健康管理」	本所、支所健康管理者 50名	三重食糧事務所	医師
7. 18	第9回松阪市保健所保健婦・予防課との合同研修会	講演「こころの病と精神保健相談」	福祉事務所・保健所職員 38名	松阪市福祉事務所	臨床心理士
9. 7		講義「センター事業の概要」	日本福祉大学学生 2名	久居病院	精神科ソーシャルワーカー
9. 13	第二回精神保健講座	講演「私も地域で暮らしたいー分裂病理解のために」	管内市町村保健婦、ヘルパー民生委員等 36名	志摩保健所	医師
9. 21	県立看護短大地域看護専攻生見学	講義「センター事業の概要」「地域精神保健活動について考える」	県立看護短大地域看護学専攻生 32名	県立看護短大	医師 保健婦
9. 26	平成6年度ボランティア教室	講演「人間の一生と精神保健」	6年度受講生 27名	上野保健所	医師
10. 18	中勢地区高等学校支部教育研究会	講演「センター事業の概要」「不登校事例紹介」	一般教諭、養護教諭 35名	三重県立津高等学校	医師
11. 7	婦人相談員定例研修会	講演「ケースのよりよい処遇をめぐる一指導援助技術について考える」	婦人相談員 13名	婦人相談所	臨床心理士
11. 20	かんぽ健康フェア	講演「心の時代の心の病」	久居市民 60名	久居郵便局	医師

月 日	名 称	内 容	対 象 者	主 催	派 遣 者
H 6 11. 24	施設長、事務職員研修会	講演「心の時代の心の病」	施設長、事務職員 21名	三重県児童福祉施設協議会	医師
11. 25	精神保健ボランティア教室	講義「ライフサイクルと心の健康」	教室受講生・市社協他 23名	桑名保健所、桑名市社会福祉協議会	保健婦
12. 6	町民健康講座	講演「こころの健康を保つためには」	40歳以上の町民 23名	桶町中央公民館 桶町福祉衛生課	保健婦
12. 6	管理職健康教育講座	講演「職場のメンタルヘルスについて」	北勢教育事務所管内小 中学校教頭 200名	県教育委員会体育保健課福利課	医師
12. 9	精神保健ボランティア教室	講義・演習「サイコドラマ」	教室受講生 23名	上野保健所	臨床心理士
12. 20	家族懇談会	講演「家族の心のリフレッシュ」	会員家族、作業所ボラ ンティア他 10名	鈴鹿保健所	臨床心理士
1. 12	管理職健康教育講座	講演「職場のメンタルヘルスについて」	南勢志摩教育事務所管 内小中学校教頭 110名	県教育委員会体育保健課	医師
1. 18	精神保健ボランティア教室	講義「地域における精神保健活動」	教室受講生 23名	上野保健所	保健婦
2. 3	精神保健ボランティア継続研修会	講義・演習「サイコドラマ」	精神保健ボランティア 会員 15名	上野保健所	臨床心理士
2. 7	課内研修会	講義・演習「面接技術－ロールプレー」	保健指導課保健婦 7名	伊勢保健所	臨床心理士
2. 9	管理職健康教育講座	講演「職場のメンタルヘルスについて」	中勢教育事務所管内小 中学校教頭 100名	県教育委員会体育保健課福利課	医師
2. 14	26回院内研修会	講演「ストレス社会と心の問題」	職員 50名	三重済美学院	医師
2. 21	管理職健康教育講座	講演「職場のメンタルヘルスについて」	松取教育事務所管内小 中学校教頭 100名	県教育委員会体育保健課福利課	医師
2. 28	戦傷病者相談員研修会	講演「心の健康」	戦傷病者相談員 28名	県老人福祉課	医師
H 7 3. 1	三重大学医学部2回生見学	講義「センター概要について」	医学部2回生 42名	三重大学医学部	医師
3. 2	三重大学医学部2回生見学	講義「センター概要について」	医学部2回生 42名	三重大学医学部	保健婦
3. 3	三重大学医学部2回生見学	講義「センター概要について」	医学部2回生 18名	三重大学医学部	精神科ソーシャルワーカー
3. 6	管内保健婦研修会	講義・演習「心理劇」	管内保健婦 28名	伊勢保健所	臨床心理士
3. 7	住宅療養看護教室	講演「心の健康について」	住民 50名	久居保健所	医師
3. 8	庶務課長以上研修	講演「職場のメンタルヘルスについて」	庶務課長以上 34名	福祉部国民年金課	医師
3. 8	被保護精神障害者福祉促進事業にかかわる会議	講演「こころの健康センターのアイデアについて」	担当者 28名	中勢福祉事務所 久居市福祉事務所	精神科ソーシャルワーカー

計38回 1,562名

## 4. 調 査 研 究



問5 講習会を受けようと思った理由や動機は何ですか？（2つまで選んで番号を○で囲んでください）

1. 精神障害者のためのボランティア活動をしたい
2. とくに精神保健というのでなくボランティア活動をしたい
3. 精神障害者と接する機会があるので接し方を知りたい
4. 精神的な病気について知りたい
5. 周囲（家族、親戚、友人）に精神障害者がいる
6. 精神保健全般に関心がある
7. 精神障害者の社会復帰に関心がある
8. 福祉活動に関心がある
9. 友人、親戚に誘われた
10. 教養として勉強したい
11. 暇なので
12. その他（ ）

問6 これまで精神障害者に接したことがありますか？

1. ある
2. ない

問7 精神障害者についてどのようなイメージをもっていますか？

（1つ選んで番号を○で囲んでください）

1. かなり良い
2. どちらかと言うと良い
3. どちらかと言うと悪い
4. かなり悪い
5. その他

問8 精神障害者についてのイメージで具体的に当てはまるものがあれば○をして下さい。

（3つまで選んで番号を○で囲んでください）

1. 病気である
2. 危険
3. 遺伝がある
4. 素直
5. 正直
6. 頭が良い
7. 純真
8. 几帳面
9. けなげ
10. アンバランス
11. 暗い
12. だらしない
13. 融通がきかない
14. 得体がしれない
15. 何をするかわからない
16. ずるがしこい
17. しつこい
18. 不潔
19. 犯罪の確率が高い
20. 特にイメージがない
21. その他（ ）

問9 下記の項目は、精神障害者に対する社会資源です。知っているものがあれば、番号を○で囲んでください。

1. 共同作業所・授産施設
2. 家族会
3. 職親
4. 保健所職員の訪問指導
5. 福祉事務所職員の訪問指導
6. 保健所などのデイケア
7. 共同住宅（グループホーム）

# 精神保健ボランティアに関するアンケート

## － 教室を終えて －

地区

氏名

問1 ① 精神障害者についてイメージや考えが変わりましたか？

1. 変わった                      2. 変わらない

② 「変わった」と答えられた方に

どの様になりましたか？

[ ]

問2 今後、精神障害者が地域で生活していく為には、どのようなことが必要だと思いますか？

(2つまで選んで番号を○で囲んでください)

- |                                 |                   |
|---------------------------------|-------------------|
| 1. 共同作業所等、精神障害者の就労場所をつくる        | 2. 行政が精神保健対策に取り組む |
| 3. 社会全体が精神障害者に対する差別、偏見をなくす      | 4. 精神保健ボランティアの育成  |
| 5. 保健所、病院、福祉の活動                 | 6. 教育、研修の機会を増やす   |
| 7. 広報・啓発活動                      | 8. 家族会の活動         |
| 9. その他 (                      ) |                   |

問3 今回の講習を今後どの様に生かして行きたいと思いますか？

[ ]

問4 教室に対する希望やご意見をお聞かせください。

① 開催場所について

イ. ころの健康センターで開催して欲しい。

ロ. 保健所で開催して欲しい。

ハ. 社会福祉協議会で開催して欲しい。

ニ. その他 (                      )

② 期間について

イ. 長すぎる

ロ. 短すぎる

ハ. 丁度良い

③ 時間について

イ. 一口単位がよい

ロ. 半日単位がよい

- ④ 内容について  
 イ. 難しかった                      ロ. やさしかった                      ハ. 丁度良かった

- ⑤ 施設見学実習について  
 イ. もっと増やした方がよい (希望の施設)                      ロ. 今のままでよい

- ⑥ その他 希望など何でも結構ですので書いて下さい。

## II 調査結果

### 1) 第1回アンケート集計結果 (回答者 48名)

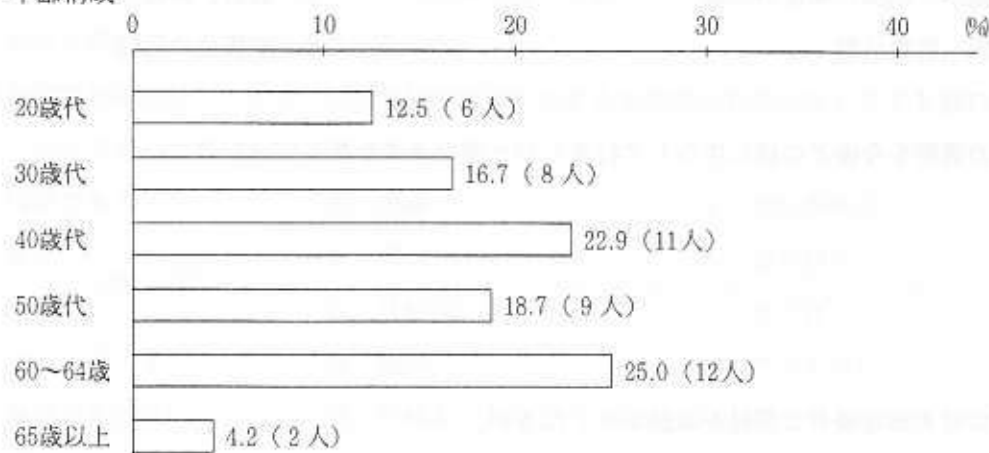
#### 1. 性別

男 7人 (14.5%)

女 41人 (85.5%)

計 48人

#### 2. 年齢構成



#### 3. 職業 - 現在 -

(人)

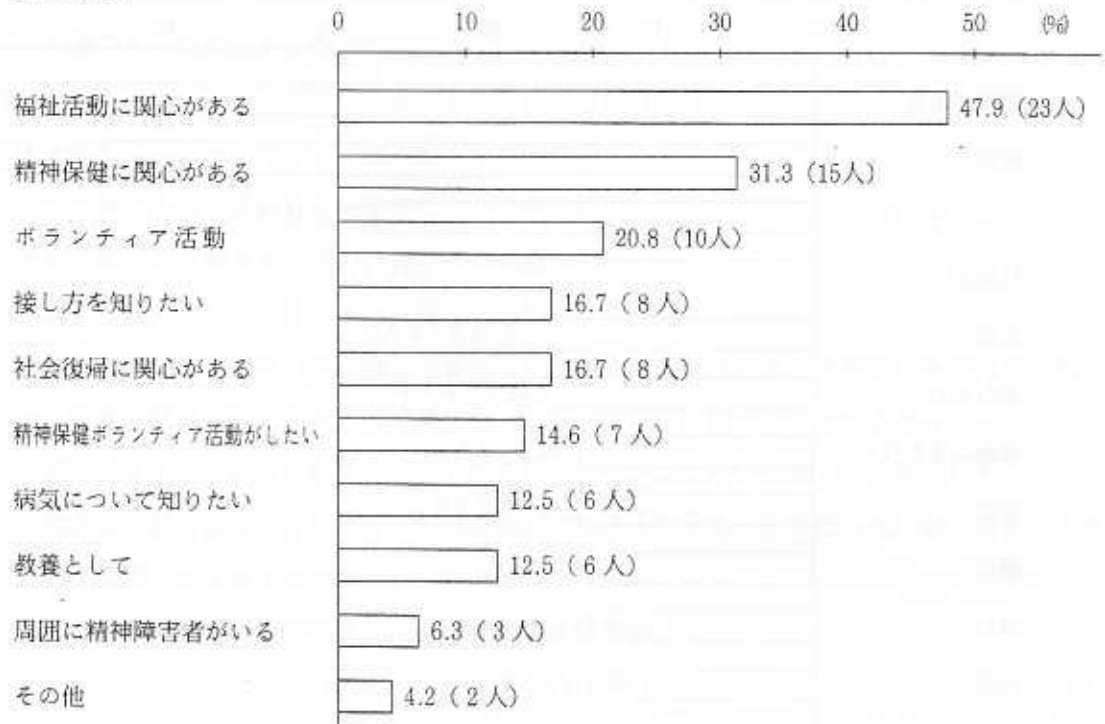
なし	主婦	学生	有 20人							
			公務員	パート	会社・事務	看護婦	農業	販売	団体職員	教育相談
15	3	1	3	3	5	4	2	1	1	1

(無解答 9人)

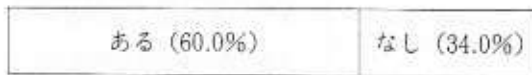
#### 4. カウンセリングについて学んだこと

ある (40.0%)	なし (60.0%)
------------	------------

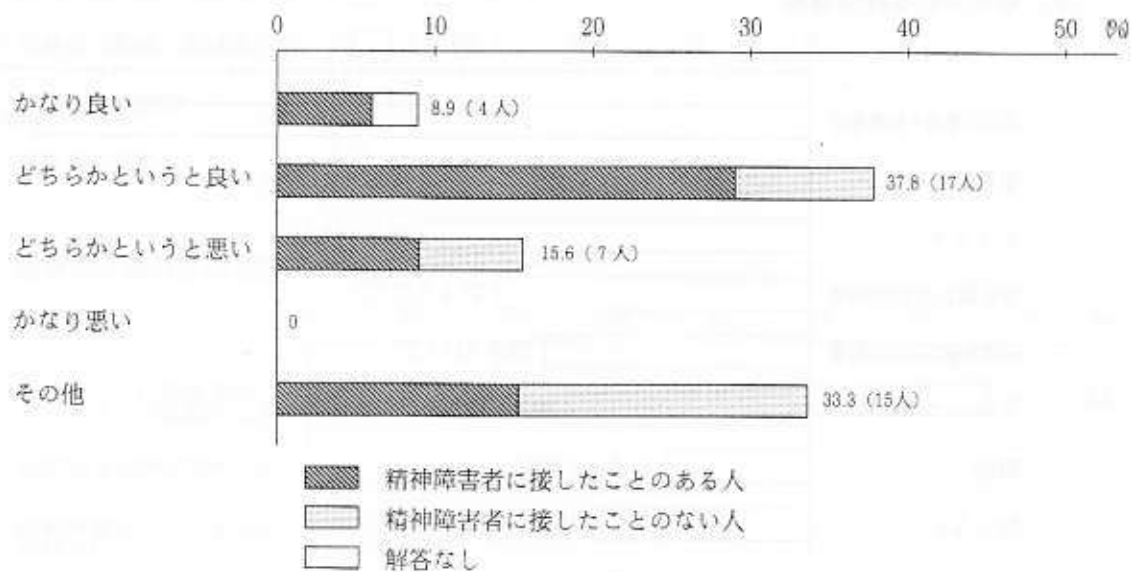
5. 受講動機



6. 精神障害者に接した経験

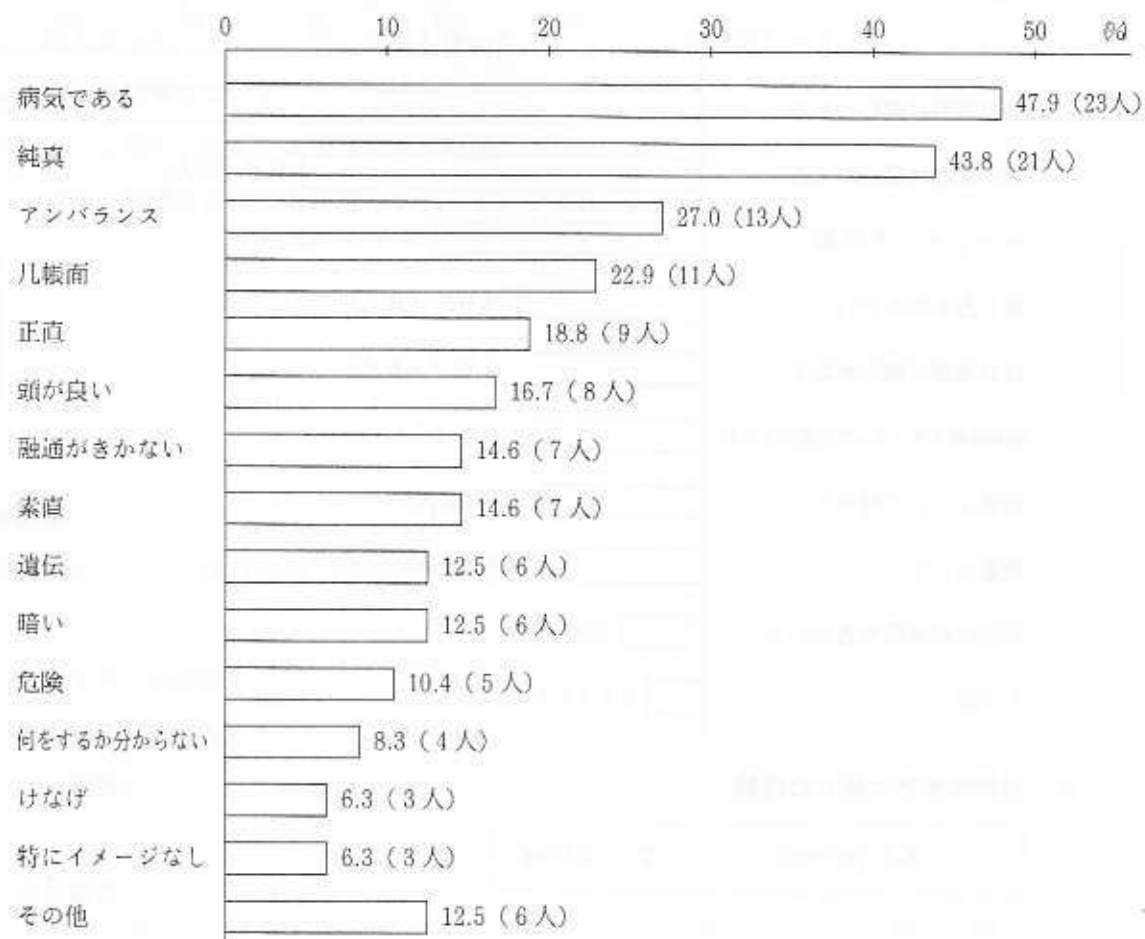


7. 精神障害者に対するイメージ

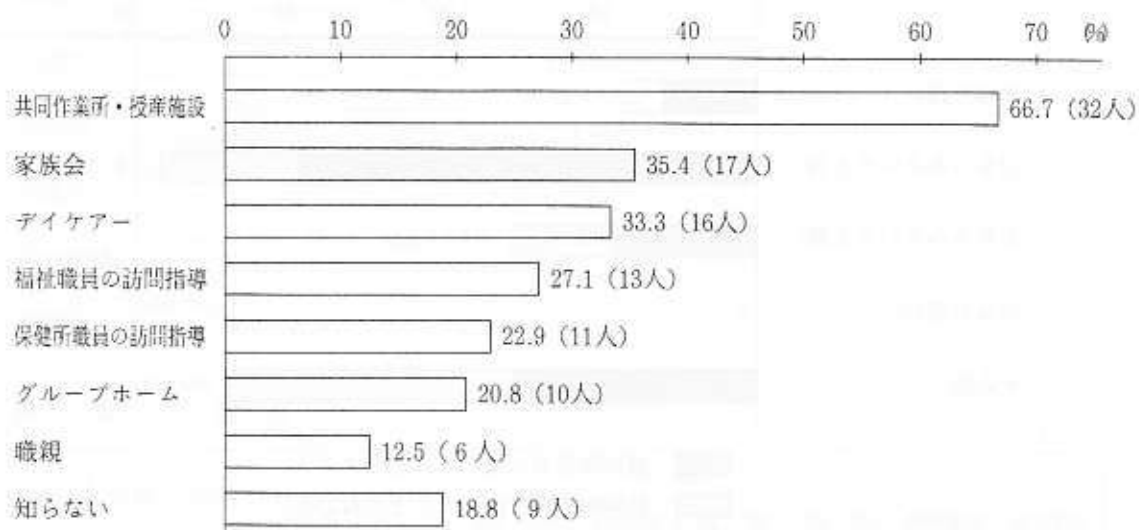




8. 精神障害者に対するイメージ



9. 知っている社会資源



2) 第2回(教室を終えて)アンケート集計結果(回答者 28名)

1. 精神障害者のイメージの変化

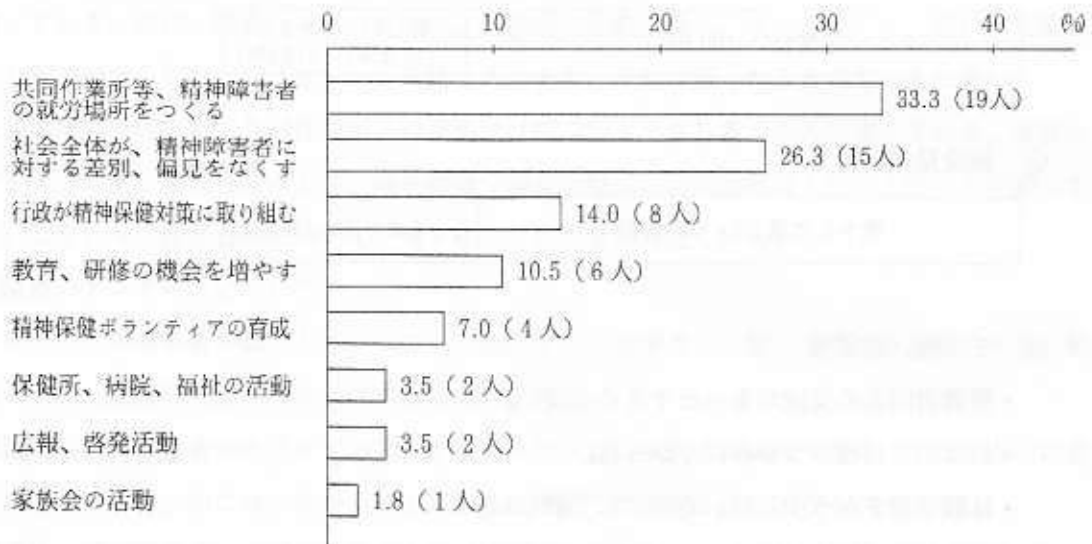
① 精神障害者についてイメージや考えが変わりましたか？

・変わった 13人 (50.0%)      ・変わらない 13人 (50.0%)      (無回答2人)

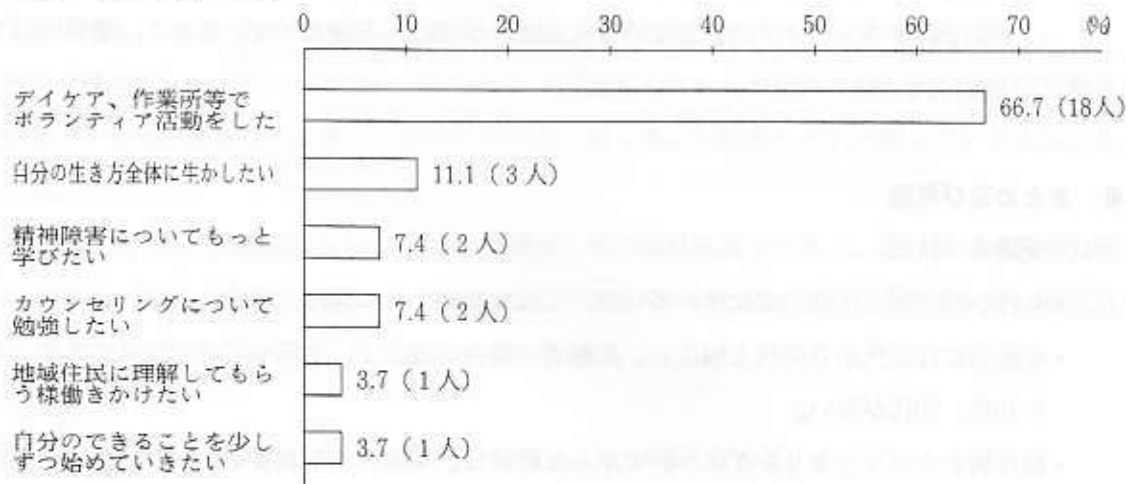
② どのように変わりましたか？

- ・普通の人と見た目あまり変わらない。
- ・障害が目に見えない部分にあるということが分かった。
- ・一般的なイメージでなく、個人個人それぞれ異なるものである。
- ・ひとりの人間であることを知ることが出来た。
- ・精神障害者に対する理解が、殆どゼロであった。
- ・偏見を持たないことが、本当に難しいと分かった。
- ・イメージが明るくなった。恐い存在からやさしく、傷つきやすい人が多い事が分かった。
- ・自分とは関係のない人達と言う感じから、身近な存在、親しみの持てる存在になった。
- ・障害者本人が、以外に偏見を持っていられるので、話し合いの難しさを痛感した。
- ・障害者の社会復帰に対して、一生懸命働いている人がいることを知った。障害者が一人でも社会に戻って生きてゆけるといいなと思う。

2. 精神障害者が地域で生活する為に必要と思われる事柄（複数回答）



3. 講習の今後の生かし方



#### 4. 教室に対する希望、意見

##### ① 開催場所

保健所 (38.5%)	社会福祉協議会 (23.1%)	その他 (19.2%)
-------------	-----------------	-------------

こころの健康センター (19.2%) (近い所で受けてたい等)

##### ② 期 間

丁度良い (77.7%)	短い (14.8%)	長い (7.4%)
--------------	------------	-----------

##### ③ 時 間

半日単位が良い (65.2%)	一日単位が良い (34.8%)
-----------------	-----------------

##### ④ 内 容

丁度良い (69.6%)	難しい (17.4%)	やさしい (13.0%)
--------------	-------------	--------------

##### ⑤ 施設見学学習

増やして欲しい (68.0%)	今のままで良い (32.0%)
-----------------	-----------------

##### ⑥ その他、希望等

- ・受講者同志の交流がもっとできると良い。
- ・具体的な目標がつかみにくかった。
- ・体験学習をもう少し早い時期にして欲しい。
- ・三重県の現状についてもっと詳しく教えて欲しい。
- ・疾病についての予備知識をもって関わりをもてば、より多くの感想が持てると思う。
- ・すでにボランティア活動している人とこれからの人と混じっているので、講義内容を変えて欲しい。

### Ⅲ まとめ及び考察

#### 1) 受講者の状況

- ・女性が85.5%で圧倒的に女性が多いが、これは初回からの傾向である。
- ・年齢的には20代から60代と幅広い、高齢者の割合が最近1、2年やや高くなってきているが、例年40代、50代が多い。
- ・精神病名やカウンセリングについて学んだ経験は、40%にみられるが、大学、看護学校等での講義が多い。中には専門的にカウンセリングを勉強している人もみられる。

- ・受講の動機については、福祉活動に関心があるが47.9%で最も多く、ボランティア活動をしたという人は、16人で全体の1/3である。周囲に精神障害者がいて、接し方を知りたい人、病気について知りたい人等の参加もみられる。
- ・精神障害者に対するイメージは、精神障害者に接したことのある人とない人とで違いを見てみると、下の図の様になり、精神障害者に対するイメージは、接したことのある人のほうが、ない人に比べよいイメージの割合が高い。

〔接したことのある人〕			回答なし
良いイメージ (54.8%)	悪い (12.9%)	その他 (22.6%)	(9.7%)

〔接したことのない人〕			回答なし
良いイメージ (25%)	悪い (18.8%)	その他 (50%)	(6.2%)

具体的なイメージは、病気であるが一番高く、50%近くの人が、病気であるというイメージを持っている。次に、純貞、アンバランス、几帳面、正直と続く。4～6人だが、暗い、危険、何をするかわからないというイメージを持つ人もあり、それは接したことのない人に多い。

- ・社会資源については、共同作業所、授産施設は66.7%とかなり多くの人が知っている。家族会、デイケアに関しては3分の1位、福祉職員や保健所職員の訪問指導は4分の1位の人が知っている。こういった社会資源について、全く知らない人も20%近くいる。

## 2) 受講後のアンケートについて

- ・アンケートの回答者が減少しているのは、回によって受講者の人数にばらつきがあるのと、最終回のため、回収率も悪かった為であると考えられる。
- ・受講後、精神障害者のイメージの考えが変わった人は、回答者の50%である。プラス方向の変化がほとんどだが、中には、かかわり方の難しさを感じた人も2、3人みられた。
- ・受講後、精神障害者が地域で生活する為に必要だと選択したのは、共同作業所等精神障害者の就労場所が最も多く、回答者の67%である。次に半数以上の人々が差別、偏見をなくすことが必要だと考えている。次に行政の取り組み、教育・研修、精神保健、ボランティアの育成と続く。
- ・講習の今後の生かし方については、ボランティア活動をしたい人が18人で最も多く、地域で働きかけたい、自分のできることを少しずつしたい等、何らかの活動をしたいと思っている人が20人となる。
- ・教室への意見では、開催場所については、保健所、社会福祉協議会が多く、近い所での開催を望む声が多い。期間、時間、内容については、現在の内容でいいと思っている人が多いが、施設見学については増やして欲しいと考えている人が多い。

## 3) 考 察

1)、2)のアンケート結果のまとめより、以下のことが考えられる。

精神障害者のイメージは、実際に接したり、精神障害への正しい知識を得ることにより、改善され

ることが多いと考えられる。

受講前のアンケートでも、接したことのない人の方が暗い、危険などマイナスのイメージを持つ人、又何をやるかわからないと不安をもつ人が多いが、受講により、プラス方向に変化した人が多い。

次に、受講者が全てボランティア活動につながる訳ではないという点である。受講後も自分自身の生き方に生かしたい、更に精神障害、カウンセリングについて勉強したいという人が7人あり、精神障害者の社会復帰を支援する活動は望めない。しかし、受講者の半数近くの人が、何らかの活動を望んでおり、人的資源の育成の効果も十分あると考えられる。

以上のことより、精神障害者への理解を深め、又、人的資源の育成のためにも、住民に身近な保健所、社会福祉協議会でも精神保健ボランティア教室が、更に開催されることが望まれる。

項目	内容
1. 精神障害者への理解を深める	精神障害者への理解を深める
2. 精神障害者への支援を促進する	精神障害者への支援を促進する
3. 精神障害者への啓発を行う	精神障害者への啓発を行う

（以下は非常に薄い文字で印刷された文章であり、内容はほとんど読み取れません。一般的な文章の構成として、導入、本論、結論の順で記述されていると推測されます。）

## 5. 協力組織の育成

- (1) 関係団体への協力援助
- (2) 地域家族会リーダー研修会
- (3) 精神保健ボランティア教室

## (1) 関係団体への協力援助

### (ア) 三重県精神障害者家族会連合会（三家連）

会員の高齢化や会員確保など様々な問題を抱えながらも、地域の中で、保健、医療、福祉等関係機関との連携を強化する一方、県下各地で活動を始めている精神保健ボランティアの支援を得ながら、“精神障害者の社会復帰・社会参加をすすめよう”を課題とし、活動を展開している。

毎年開催されている三家連精神保健大会は、本年23回目を迎え、年々参加者も増え関係者も含めての研修の場となっている。

平成6年度においても、家族会の育成とともに、こうした関係領域の拡大と連携強化を目指して指導援助を行った。

三家連の運営に関する指導助言はもとより、三家連精神保健大会の企画・運営や、機関誌「あゆみ」の編集のほか、年1回家族会役員とセンター所長との定例懇談会など、指導援助回数は年間24回となっている。

### (イ) 精神障害者地域家族会

県内の地域家族会は、現在、病院家族会4か所、地域家族会が7か所が活動している。

地域家族会への援助は、主に保健所において開催されている各家族会の定例総会への参加や、会独自で計画された研修への講師の派遣のほか、平成4年度から平成6年度にかけて、7か所の共同作業所が開設され、地域の受け皿づくりへの積極的な取組が行われていくなか、情報提供や各関係機関との連絡調整等、年々援助の要請が増えている。

### (ウ) アルコール関連組織（断酒会等）

三重断酒新生会は昭和47年に結成され、アルコール依存症の自助組織として独自の活動を行っている。県内には、6ブロック、13支部が各々例会がもたれるなど、地域に根ざした活動が行われている。また、病院内においても断酒会が結成され活動している。

地域においては、従来から「アルコール問題予防のためのネットワーク会議」が開催され、センターも世話人の一人として参画している。

平成6年度き協力援助状況は次の通りである。

内 容	実施回数
アルコールネットワーク会議及び連続講座	4回
鈴鹿さくら病院断酒会	1回
三重断酒会体育祭	1回

(2) 地域家族会リーダー研修会

保健所を拠点とした地域家族会活動の推進を図るため、平成2年度から標記の研修を開催している。

現在7ヶ所の保健所に地域家族会が結成されており、その活動は年々活発になってきている。

なかでも、共同作業所等社会復帰の受け皿づくりについては、関係諸機関や団体との連携協力の下、県下各地での取り組みが盛んになってきている。

これらの活動をさらに推進するため、関係者の研修および相互の交流を図り、精神障害者の社会復帰体制の整備を促進することを目標とし、「共同作業所における就労援助」を研修課題とし開催した。

研修内容は、次のとおりである。

	研 修 内 容	参加者数および対象者
第1回 平成6年 7月19日	講演会 「精神障害者の職業リハビリテーションについて」 三重障害者職業センター 主任カウンセラー 小 林 寛 「職業安定所における精神障害者職業相談窓口から」 津公共職業安定所 精神障害者職業相談員 渡 辺 朝 子 「三重県における社会復帰促進事業について」 三重県保健予防課精神保健係長 丹 羽 正 男	38名 共同作業所長および指導員、 家族会会員、ボランティア 等関係者
第2回 平成6年 11月8日	施設見学 障害者総合リハビリテーション施設「麦の郷」 (和歌市岩橋643)	21名 対象者 同上
第3回 平成7年 3月14日	全体討議「精神障害者の就労援助について」 話題提供者 ・職親の立場から 亀井園芸代表 亀 井 輝 忠 ・共同作業所指導員の立場から 工房T&T指導員 岡 田 義 孝 助言者 四日市日永病院 医療福祉相談室 主任PSW 奥 村 明	43名 対象者 同上



### (3) 精神保健ボランティア教室

地域で生活する精神障害者への理解を深め、それを支援することを主な目的として、平成元年より精神保健ボランティア教室を開催している。

平成6年度も、これらの活動の充実、拡大を図るため下記実施要領に基づき教室を開催した。

#### 精神保健ボランティア教室実施要領

##### 1. 目 的

精神障害者の治療や、社会復帰に対する考えは、従来入院治療中心から、地域精神医療へと次第に視点を移してきている。

このような状況のもとでは、社会資源をいかに有効に活用するかが精神障害者の社会復帰を促進していくうえで重要な要素となる。特に人的資源については考えるなら、従来は医師、看護婦、ソーシャルワーカー、保健婦などの専門的な人々によって支えられてきたが、地域に根ざした生活の場（共同作業所や回復者クラブ、共同住居など）が、志向されている現在の状況のもとでは、専門家集団による力だけでは、その目的を達しえない。むしろ、より広く、人的資源を求めていくことで、これを支え押し進めていくことができるものと期待されている。

そこで、このような人材を精神保健ボランティアとして、育成していくことを目的として、ボランティア教室を催すものとする。

##### 2. 主 催

三重県こころの健康センター

##### 3. 日 時

平成6年8月4日（木）～11月17日（木）

毎月第1、3木曜日（13：30～15：30）

##### 4. 会 場

三重県こころの健康センター

##### 5. 対 象

精神保健やボランティア活動に興味があり、受講後ボランティアとして活動する意志のある方および受講を通して自己の心の健康づくりを図ろうとする方。

##### 6. 内 容

別表プログラムのとおり。

##### 7. 費 用

受講料は無料とする。

##### 8. 募集方法

一般公募

## 9. 申し込み方法及び期日

申し込み用紙により申し込む。締切り 7月21日（木）但し定員に達し次第締め切る。

### 精神保健ボランティア教室実施状況

平成元年度より開催しているボランティア教室は、年々受講希望者が増加している。

今年度も従来通り、県下各市町村広報等の掲載を依頼し公募したところ、多数の受講希望があった。その為、定員を上回って受け付け教室を開催した。

（別表）

#### 1. 内容（プログラム）及び受講者数

回	内 容 (13:30~15:30)	受講者数
第1回	8月4日（木） （13:30~14:10） 開講式 オリエンテーション （14:30~15:30） 講義「ボランティア活動は？」 三重県社会福祉協議会 大形 治	45名
第2回	8月18日（木） 講義「ライフサイクルと心の健康」 思春期・青年期 小児心療センターあすなる学園・医長 西田 寿美	48名
第3回	9月1日（木） 講義「ライフサイクルと心の健康」 中年期・老年期 三重県こころの健康センター所長 原田 雅典	46名
第4回	9月14日（水） 講義「障害を持って生きること」 国立療養所榊原病院院長 豊田 純三	37名
第5回	10月6日（木） 心理トレーニング「よりよい出会いのために」 三重県こころの健康センター主査・臨床心理士 久保早百合	38名
第6回	10月20日（木） 施設見学 「共同作業所・保健所デイケア等」	35名
第7回	11月2日（水） 講義「精神障害者の社会復帰とボランティア活動」 長野県精神センター職員・臨床心理士 上島 求	33名
第8回	11月17日（木） まとめ 「三重てのひら」の会員と共に	39名

## 2. まとめ

今年度は、52名の受講者を対象に教室をスタートしたが、途中で8名が受講されなくなったため、教室修了者は44名であった。

講義の他に、精神障害者への理解をいっそう深め、ボランティアの必要性を認識してもらうため、毎年、施設見学を行っている。今年度は、共同作業所見学は「工房T&T・わかば共同作業所・ワークルーム桑友・すずわの家・コミュニティハウスオレゴン・松阪工作所・ふるさと工房」で、保健所のデイケア見学は「鈴鹿・津・松阪・伊勢」の各保健所に依頼し実施した。施設見学後受講者から、「障害者の人達は自分の思っていたイメージと違った。」「実際に接することで、偏見もなくなり理解出来ると思った。」等の感想が寄せられた。

また、最終日は先輩ボランティアである三重てのひらの会員との交流及び、地区別に分かれて「ボランティア活動を実践していくための具体的な方法として」というテーマでグループワークを実施した。その結果、受講者の内、24名が今後、ボランティア活動への参加を希望され、三重てのひらの会員としてボランティア活動をしていくことになった。

この教室は、ボランティアの継続研修としても活用しており、すでに受講された人を対象に今年度は、第4回目と第7回目の計2回、希望者に聴講してもらった。

## 3. 受講者の状況

年度別、各保健所管内別受講者数（平成3年度～平成6年度）

年度	総数（人）	桑名	四日市	鈴鹿	津	上野	久居	松阪	伊勢	志摩
H6	52	4	3	13	5	2	7	12	4	2
H5	44	1	14	1	5	8	6	5	4	0
H4	37	0	3	8	5	4	12	2	2	1
H3	28	0	4	2	8	6	6	0	2	0

平成6年度 受講者の年代別、職業別状況

年代	区分 人数	有 職 者						な し	ボランティアの経験	
		公務員	会社員	医療関係	パート	農林業	その他		有	無
20	7		2	2			2	1	3	4
30	8	2	1	1	2			2	3	4
40	12				2	2	1	7	4	8
50	11		2		1	1		7	6	5
60	14			1		1	1	11	10	4
計	52	2	5	4	5	4	4	28	26	26

受講者の年齢層は、40代、50代、60代が7割を占めている。

#### 4. 精神保健ボランティア教室修了者の活動状況

平成4年10月、精神保健ボランティア教室修了者の中で、「三重でのひら」という精神保健ボランティアグループを結成し活動している。

平成7年3月現在、40歳代から60歳代を中心に男女合わせて88名が会員として登録している。

活動の目的は、精神障害者が地域で生活していくための支援であり、精神障害者が社会で受け入れられてもらうための援助や啓発を行うことが活動の目標になっている。

具体的な活動内容は、

- ① 精神障害者の家族会活動への協力。
- ② 共同作業所への支援。
- ③ 資金獲得活動（バザー）
- ④ こころの健康センターや保健所の実施している社会復帰事業への協力。
- ⑤ 会報「三重でのひら」の刊行
- ⑥ 精神保健に関する各種研修会への参加及び協力。
- ⑦ 広報、啓発活動。
- ⑧ 総会、役員会の実施。
- ⑨ 他のボランティアグループとの交流。

等であり、そのほかに平成7年1月に発生した阪神大震災では、救援物資を集めて送る等のボランティア活動が熱心に行われた。今後は、各支部（各保健所管轄地域）別の活動の充実を図ることも課題として残っている。

## 6. 心の健康づくり推進

- (1) こころの健康づくり教室
- (2) こころの健康づくり推進連絡会議
- (3) 思 春 期 講 座

近年の社会生活環境の複雑化に伴い、これらのに適応するためのストレスが増大、ノイローゼ、うつ病等の精神疾患が増大している。

こころの健康センターでは、これら精神疾患に関する窓口の設置、精神保健に関する知識の普及等を行うことにより、精神保健の保持を図る目的で次の三事業を実施した。

#### (1) こころの健康づくり教室

今年度のこころの健康づくり教室は、回復途上にある精神障害者の社会参加に向けての交流の場として、昨年を引き続き「こころの健康づくりフェスティバル」を開催した。

### 「こころの健康づくりフェスティバル」実施要領

#### 1. 目 的

県内の社会復帰施設、共同作業所のメンバー、保健所、病院、こころの健康センターデイケア等地域社会の中で生活し社会復帰をめざす人々が一同に集まり、家族、ボランティア、各関係機関職員の参加のもとスポーツ、レクリエーションなどを通して交流、互いの理解を深め、精神障害者の社会復帰を図る。

#### 2. 開催日時

平成6年10月8日(土) 午前10時30分～午後3時

#### 3. 場 所

久居市総合体育館 久居市野村町877-1 ☎(0592)55-6081

#### 4. 主 催

こころの健康づくりフェスティバル実行委員会

デイケア実施保健所(桑名、四日市、鈴鹿、津、松阪、伊勢、上野、尾鷲)

デイケア実施病院(国立療養所榑原病院、県立高茶屋病院、松阪厚生病院、四日市日永病院、鈴鹿厚生病院)

共同作業所(わかば共同作業所、すずわの家、松阪工作所、ふるさと工房、みのり工房、いすゞ工房、工房T&T、上野ひまわり共同作業所、オレゴン、ワークルーム桑友)

社会復帰施設「四季の里」

三重県精神障害者家族連合会、地域家族会

三重てのひら「精神保健ボランティア」

こころの健康センター

#### 5. フェスティバル実行委員会<仮称>の設置

フェスティバルの成果をより高めるために上記関係機関から実行委員を選出願い、実行委員会を開催しフェスティバルの具体的な内容、準備等について検討を行う。

#### 6. プログラム

① 誰もが参加しやすいレクリエーション、スポーツ(運動会競技)を中心とした内容で別途定める。

② 各施設、デイケア等の作品の展示を行う。

## 7. 広 報

① フェスティバルのポスターを作成、各関係機関に配布、案内するとともに参加を呼びかける。

② その他新聞等により広報活動を行う。

## こころの健康づくりフェスティバルプログラム

期 日	平成6年10月8日(土)
場 所	久居市総合体育館 久居市野村町877-1 ☎ 0592-55-6081
日 程	10:00 受付 25 集合(グループ別に集合、プラカードを先頭に入場行進) 30 開会式 開会宣言、実行委員長挨拶、来賓挨拶、競技の説明・注意事項、選手宣誓、ラジオ体操

### 《午前の部》

10:45~11:05	① ジャンケンゲーム	全員参加
	(休憩15分)	
11:20~11:40	② シippoとりゲーム	(100) 団体競技
11:40~12:00	③ 風船ゲーム	(100) 団体競技
12:00	昼食・休憩	

### 《午後の部》

1:00~1:20	④ ウルトラクイズ	全員参加
1:20~1:40	⑤ パン食い競争	(120) 個人競技
	(休憩30分)	
2:10~2:30	⑥ 大玉ころがし	(100) 団体競技
2:30~2:45	⑦ フォークダンス「オクラホマミキサ」	全員参加
2:45	閉会式	
	講評、閉会宣言	
3:00	終 了	

障害者の交流の場としてフェスティバルを企画し4年目になる。回を重ねるにつれ、メンバー、関係職員、家族会、ボランティア等年々参加者も増え、当日は、320名余の参加となり盛会のうちに終了した。

内容・準備には行き届かなかったところがあったと思われるが、参加者からは楽しかった、来年も参加したいなどの声もきかれ、地域で生活し、社会復帰をめざす一日であったと思われる。







## (2) こころの健康づくり推進連絡会議

地域保健法の制定により、生活者の立場を重視した地域保健の新たな体制が示され、住民が身近なところで保健や福祉のサービスが受けられるよう、市町村における保健福祉活動のより一層の充実が求められている。

従来から、都道府県、保健所を中心にすすめられてきた精神保健活動においても、市町村の果たす役割への期待が高まってきている。

このような状況の中で、本年度は「市町村と精神保健活動」を課題として、市町村における精神保健活動の現状を把握し、今後のあり方を検討した。

### こころの健康づくり推進連絡会議（市町村と精神保健活動）実施要領

#### 1. 目的

地域精神保健活動は、住民の心の健康づくりの他、精神障害者をはじめとする様々な心の障害をもつ人々のニーズに対応するための活動であり、そのために必要な援助活動は住民が住み慣れた生活の場において提供されることが望まれている。

従来、これらの活動は保健所や精神保健センターを中心として、関係機関との緊密な連携のもとに展開されてきた。

ところが、「障害者基本法」や「地域保健法」の制定に伴い、精神障害者もできるだけ他の障害者と同等の保健・福祉サービスを受けられるべきであるとする流れが醸成されつつある。

このような状況のなかで、地域に住む生活者としての精神障害者にとって、身近な行政機関である市町村への期待は益々たかまわってきている。

そこで、市町村における精神保健活動の実態を把握し、今後のあり方について検討する。

#### 2. 実施主体 三重県こころの健康センター

#### 3. 参加者 市町村保健婦等関係者

#### 4. 協議事項

第一回 平成6年12月13日（火） 13:30～16:00

- ・地域精神保健活動の概要
- ・三重県における精神保健活動 —保健婦活動を中心に—
- ・市町村における精神保健活動の現状

第二回 平成7年1月18日（水） 13:30～15:30

- ・他県の活動状況から

「愛媛県大三島町における地域精神医療活動」

愛媛県越智郡大三島町役場健康福祉課 課長補佐兼保健婦長 菅 マリハ

第三回 平成7年2月17日（金） 13:30～15:30

- ・講演会

「精神障害者の社会復帰対策 ―その課題と展望―」

東京都立大学社会福祉学科 助教授 大 島 巖

2. 協議事項

〈第1回〉

期 日 平成6年12月13日（火）

出席者 15名

議 題 1 会議の主旨説明

2 講義

(1) 「地域ケアをめぐる」

こころの健康センター所長 原 田 雅 典

(2) 「三重県における精神保健活動 ―保健婦活動を中心に―」

こころの健康センター 副参事 倉 田 つや子

3 情報交換 「市町村における精神保健活動の現状」

内 容 市町村での活動の現状についての情報交換では、精神障害者への援助については保健所で対応することとして役割分担がされており、かかわることは少ないという現状が報告された。

しかし、母子や老人を対象とした活動の中で精神保健的なアプローチが必要とされるケースが増えてきており、精神保健的な視点での問題のとらえ方や支援方法などについて指導を受けていく必要がある。

住民の身近な相談窓口として、精神障害者や痴呆等への対応も求められており、保健所や福祉分野と連携のうえ精神保健活動へも取り組んでいきたいという積極的な意見も出された。

〈第2回〉

期 日 平成7年1月18日（水）

出席者 17名

議 題 他県の活動状況から

「愛媛県大三島町における地域精神医療活動」

大三島町役場 健康福祉課

課長補佐兼保健婦長 菅 マリハ

内 容 昭和54年以来、愛媛大学医学部精神科の全面的な指導をえて、地域精神医療活動が展開されている。

①精神障害者の継続通院への援助②入院せず、または入院を短期間にとどめる。③社会復帰を促進し、できる限り地元での生活を目指す。という三つを目標とし、精神保健相談・在宅者の訪問活動・患者会や家族会の育成・小規模作業所の設置など先進的な活動状況について報告された。

〈第3回〉

期 日 平成7年2月17日(金)

出席者 17名

内 容 講演会(地域精神保健研修会を聴講)

「精神障害者の社会復帰対策 —その課題と展望—」

東京都立大学社会福祉学科 助教授 大 島 巖

(3) 思春期講座

思春期は子どもから大人への過渡期であるといわれ、過渡期であるがゆえに精神的な不安定さを生ずる。殊に、現代社会のような社会変動が著しい状況においては、思春期が不安定さを特徴とするがゆえにさまざまな心の問題が生じやすくなる。

登校拒否、家庭内暴力、非行など、思春期の心の問題が具体的な行動上の問題となって現れ、マスコミを始めとし社会的な関心が高まっている。

また、拒食症、心身症なども増加の傾向にある。

よく知られているように社会変動は文化的経済的な急激な変化だけでなく社会の基盤にある構造そのものも変わりつつある。このような時代的な流れの中で、家族の役割も不安定なものにならざるを得ない。

思春期の不安定さを安定化させる役割が家族の中にあると考えた時、家族の役割が不安定になることは、思春期の心の健康を考えていくうえで、重大な危惧を生ずる。

このような視点から今回の思春期講座は、この時期の子どもをもつ家族を対象に、5回の連続講座をもち、各分野の立場から「思春期とは」の講義と話し合いをもった。その中で思春期における心の問題と家族の役割を見直すこととした。

(ア) 思春期講座の概要

平成6年度 思春期講座実施要領

1. 目 的 思春期の子どもをもつ家族に対して「思春期とは」の理解を深め、この時期の子どもを支えるための知識・理解を深める
2. 実施主体 三重県こころの健康センター
3. 期 間 平成6年10月13日(木)～平成7年2月9日(木)  
毎月1回(第2木曜日)午後1時30分～3時30分
4. 場 所 三重県こころの健康センター
5. 対 象 者 思春期の子どもをもつ家族で、連続して講座に参加できる方
6. 内 容 講義 グループワーク(別紙1のとおり)
7. 募集人員 20名

8. 受講料 無料

9. 申し込み方法および期日

別紙申込書により申し込む

締め切り 9月22日(ただし定員になり次第締め切る)

## 思春期講座のご案内

三重県こころの健康センター

思春期は人間の一生の中でも、身体的、心理的、社会的にも変動の著しい時期です。この時期の子ども達は、さまざまな心の揺れを持ち不安定になりがちです。時には、不登校、家庭内暴力、そして心身症などの思春期における心の問題が生じます。

今回、この講座は、思春期における心の問題や疑問を解決していくための勉強や話し合いなどを通じて、これらの青少年に対するよき理解者としての家族を目指していくものです。

### 記

1. 日 時 平成6年10月13日(木)～平成7年2月9日(木)

毎月第2木曜日(午後1時30分～3時30分)

2. 場 所 三重県こころの健康センター

3. 内 容 講義、グループワーク、プログラム(表1)に示す

4. 対象人員 思春期の子どもをもつ家族で、連続して講座に参加できる方 20名

5. 申し込み 申込書に必要事項をご記入の上、申込先までお送りください。

締め切り 9月22日

定員になり次第締め切らせていただきます。

6. 申し込み先及びお問い合わせは

久居市明神町2501-1 三重県久居庁舎一階

三重県こころの健康センター ☎ 0592-55-2151

平成6年度 思春期講座プログラム

(表1)

期 日	内 容 お よ び 講 師
平成6年 10月13日	児童精神医学の立場からみた思春期 宝積クリニック 院長 宝積己矩子
11月10日	臨床心理学の立場からみた思春期 小児心療センターあすなる学園 セラピスト 都築 健永
12月8日	教育相談の立場からみた思春期 県立津東高等学校 教諭 内海 康子
平成7年 1月12日	グループワーク 思春期の体験を通して子どもを理解する こころの健康センター 主査(臨床心理士) 久保早百合
2月9日	グループワーク 子どもの自立をめぐる こころの健康センター 主幹(精神科医) 松崎 まみ 主査(臨床心理士) 久保早百合

(イ) 思春期講座の経過

参加者は23名となった。子どもが示す問題の内容も不登校、家庭内暴力、心身症などの適応障害にとどまらず、分裂病の初期症状と思われる精神病圏まで、幅広い範囲のものを含んでいた。地区については紀南地区を除く各地区からの参加があった。

第1回

宝積クリニックの宝積院長が「こども」の見方を説明され、さらに、思春期の時期のさまざまな特徴をわかりやすく話された。思春期が心身の変化を強く自覚する最初の時期であることをまず強調された。その自覚がもたらす混乱、そしてその混乱を回避したり整理するため、思春期の子どもが行う行動化の意味を家族に理解できるように説明された。ことばよりも行動で気持ちを表す子どもたちとの葛藤に疲れている親たちにとっては、たいへん意味のある内容であった。

第2回

県立小児心療センターあすなる学園の都築セラピストは、思春期・青年期の特性を、エリクソンの発達理論に基づいて話された。アイデンティをとりあげ、「自分らしくありながら集団の中で自分なりの居場所を確保できている状態」を説明し、青年期の大切なテーマであることを強調された。

第3回

県立津東高等学校の内海教諭は、思春期の生き方探しと題し、教育相談事例を通して説明された。そして、思春期、学校において生き方探しのやりやすい方法として、うたうこと、弾くこと、読むことなどがあり、何かをし始めると道が開かれると話された。

大人の側が思春期の生き方探しにどうかかわるかについては、援助者、早期対応、学校と家庭の

連携、絶対的な愛情が必要であることを強調された。

#### 第4回

サインドラマという形をとりながら、ロールプレイングを通して思春期の子ども達の心の動きを理解する試みを行った。参加者自ら、思春期の時代を回想させられることになり、楽しい気持ちになった方もいれば、葛藤的な気持ちになった方もあったようだった。いづれにしても、それぞれの方が、思春期の気持ちを体験したことについて、今後子ども達の心を理解するのに役立つという、積極的な評価が行われた。

#### 第5回

参加者を2グループに分けて、それぞれ自由に討議された。参加の動機を話し合う中で、親としてどう対応すればよいのかなど、思春期の子どもの問題を自ら考えようとする姿勢がみられた。このように親が自ら考えようとする姿勢がでてきたことは、この講座の意図する親自身が問題を考え、親自身の姿勢を自ら考えるという目的の出発点であるように考えられた。

#### (ウ) 思春期講座OB会

思春期講座の参加者の有志を中心としたOB会が結成され、1年が経過した。思春期講座に参加し、親自身が自ら姿勢をかえるという態度が具体的に有志の集まりというかたちになってあらわれたものと思われる。「思春期の混乱状態にある子どもたちに対して親ができる援助を具体的に話し合い考えていこう」という主旨からも、前述した親自身が、自ら取り組もうとする姿勢を読みとることができる。

思春期講座が単なる受け身の講座でなく、参加者自身がより主体的に積極的に参加できるような援助の仕方を今後も模索する必要がある。

## 7. 精神保健相談

精神保健相談事業は、「こころの健康相談」（来所相談）と「こころのテレフォン相談」（電話相談）に分けられる。

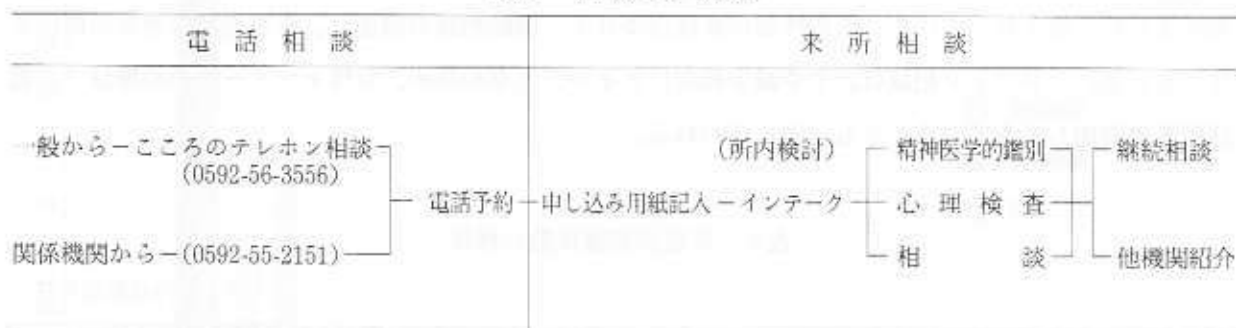
「こころの健康相談」は、思春期・老年期・酒害・ダイエットSOSのような特定相談も含め、毎週火・木を原則として相談に応じてきた。しかし相談者数の急増にともなって他の曜日にも随時予約をとり対応してきた。平成6年度の相談員は、医師2名（所長、精神科医1名）、保健婦（精神保健相談員）2名、精神ソーシャルワーカー1名、心理技術者1名の計6名である。

「こころのテレフォン相談」は、毎週月～金曜日の午前10時～午後4時まで、専用電話にて相談に応じている。その対応は専任の嘱託相談員（看護職）2名があたっている。

また、時間外については、留守録を利用し、必要な場合には、翌日センターから連絡をとる体制にしている。

相談の流れは、図1に示してある。この基本的な考え方は所内でそれぞれの専門職種が互いに検討を行い、それぞれの相談内容に適した方法がとれるようになっている。

図1 相談の流れ



平成6年度における相談の概要は以下のとおりである。

相談件数（表1・表2）をみると、来所相談が前年度比118%、電話相談が95%であり、来所相談はやや増加、電話相談はやや減少、全体の相談件数はやや増加している。来所相談の中の継続相談の増加が特徴となっている。又、特定相談の思春期の相談は56%に減少し、老年期が約3倍に増加している。

表1 平成6年度 相談件数

( )内は新規件数

		件数	構成比
こころの健康相談		1,344 (104)	35.2
こころのテレフォン相談		2,472 (361)	64.8
再掲	思春期	279 (133)	7.3
	老年期	134 (33)	3.5
	酒害	1 (1)	0
計		3,816 (465)	100.0

表2 平成5年度 相談件数

( )内は新規件数

		件数	構成比
こころの健康相談		1,139 (109)	30.5
こころのテレフォン相談		2,593 (363)	69.5
再掲	思春期	497 (136)	13.3
	老年期	46 (18)	1.2
	酒害	6 (6)	0.2
計		3,732 (472)	100.0



相談者別件数（表3）については、新規件数、継続件数共に本人からの相談が増加し、今まで増加傾向にあった家族、その他からの相談は減少している。

表3 相談者別件数

（ ）内は新規件数

	こころの健康相談	こころのテレフォン相談	計	構成比
本人	1,206 ( 61)	2,196 (201)	3,402 (262)	89.1
家族	123 ( 38)	220 (140)	343 (178)	9.0
その他	15 ( 5)	56 ( 20)	71 ( 25)	1.9
計	1,344 (104)	2,472 (361)	3,816 (465)	100.0

平成元年度からの年度別相談件数の推移（表4）をみると、来所相談は年々増加し、平成6年度は、元年度の約5倍となっている。新規件数の変化は少なく、継続相談の増加が、来所相談の増加の原因となっている。テレフォン相談は、やや減少傾向にあるが、児童相談所、女性センター等の他施設での電話相談が増加してきていることも一因と思われる。

表4 年度別相談件数の推移

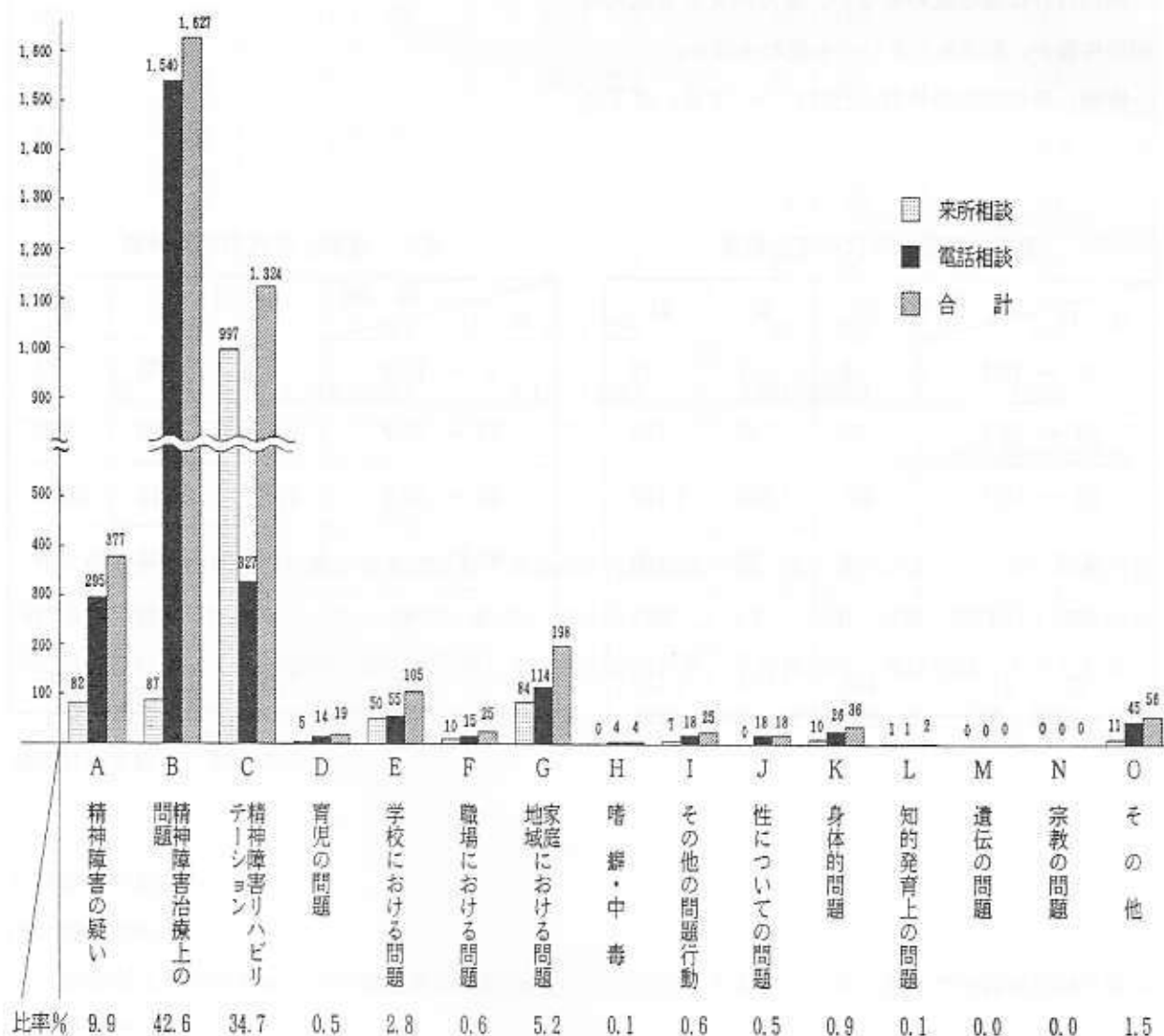
（ ）内は新規件数

年度	来所相談	元年比	テレフォン相談	元年比	計	元年比
平成元年度	272 (109)	100	1,817 (315)	100	2,089 (424)	100
2	454 ( 86)	166.9	2,694 (291)	148.3	3,148 (377)	150.7
3	581 ( 77)	213.6	2,772 (320)	152.6	3,353 (397)	160.5
4	903 (115)	332.0	3,013 (474)	165.8	3,916 (589)	187.5
5	1,139 (109)	418.0	2,593 (363)	142.7	3,732 (472)	178.7
6	1,344 (104)	494.1	2,472 (361)	136.0	3,816 (465)	182.7

相談内容別件数は、図2に示してある。全体を大きく分けると精神障害に関したもの（精神障害の疑い、精神障害治療上の問題、精神障害リハビリテーション）と適応障害に分けることができる。精神障害に関したものは、全体の87.2%と高くなってきており、その中でも治療上の問題が42.6%、リハビリテーションが34.7%となっている。精神障害、精神科治療への不安が多くみられると共に、昨年同様、精神障害者の社会復帰への関心が高まってきていると考えられる。

適応障害の中では、地域、家庭における問題、学校における問題、職場における問題が全体の9.6%、適応障害の中では75%を占めるが、件数は、昨年より低くなってきている。適応障害自体は、減少していないと思われるので、それぞれの場で、相談機関等、適応障害を支える機能が徐々にできてきていることがうかがわれる。

図2 相談内容別件数



次に、表5に示されている性別、年代別件数についてみると、来所相談では、男性が女性よりも多い傾向は、今年度もみられるが、その差は縮まっており、年代によっては、女性の方が多くなっている。

年代では、今年度も成人が84.4%と圧倒的に多くなっているが、女性で老人が昨年に比べ、増加している。

次に、表6に示すように、電話相談について同じく、性別、年代別にみると、電話相談では女性が、圧倒的に多く、成人では5倍となっており、この傾向は昨年度と変わらない。また男女とも成人の相談件数が、88.8%と多いのも変わらない。

性別、年代別相談件数の合計については、表7に示してある。

表5 性別、年代別来所相談

年 代 \ 性 別	男	女	計
0 ~ 12才	0	31	31
13 ~ 22才	73	38	111
23 ~ 59才	656	478	1,134
60才 ~	5	49	54
不 明	3	11	14
合 計	737	607	1,344

表6 性別・年代別電話相談

年 代 \ 性 別	男	女	計
0 ~ 12才	5	7	12
13 ~ 22才	78	90	168
23 ~ 59才	361	1,834	2,195
60才 ~	8	72	80
不 明	6	11	17
合 計	458	2,014	2,472

表7 性別、年代別相談件数

年 代 \ 性 別	男	女	計
0 ~ 12才	5	38	43
13 ~ 22才	151	128	279
23 ~ 59才	1,017	2,312	3,329
60才 ~	13	121	134
不 明	9	22	31
合 計	1,195	2,621	3,816

表8 保健所管内別相談件数

保健所	こころの健康相談	こころのテレフォン相談	計	構成比
桑名	44 ( 4)	69 ( 23)	113 ( 27)	2.9
四日市	54 ( 13)	94 ( 55)	148 ( 68)	3.9
鈴鹿	166 ( 14)	731 ( 33)	897 ( 47)	23.5
津	464 ( 16)	326 ( 69)	790 ( 85)	20.7
久居	447 ( 27)	219 ( 52)	666 ( 79)	17.4
松阪	105 ( 8)	779 ( 28)	884 ( 36)	23.2
伊勢	35 ( 8)	139 ( 29)	174 ( 37)	4.6
志摩	11 ( 5)	12 ( 5)	23 ( 10)	0.6
上野	15 ( 7)	46 ( 22)	61 ( 29)	1.6
尾鷲	1 ( 1)	15 ( 8)	16 ( 9)	0.4
熊野		2 ( 2)	2 ( 2)	0.1
県外		13 ( 13)	13 ( 13)	0.3
不明	4 ( 1)	27 ( 22)	31 ( 23)	0.8
計	1,344 (104)	2,472 (361)	3,816 (465)	100.0

( )内は新規件数内数

次に保健所管内別相談件数が表8に示してあるが、来所相談では、津、久居が多く、この2保健所管内で全体の67.8%を占める。次に、鈴鹿、松阪、四日市が続く。上野、志摩、尾鷲、熊野の4保健所管内では件数が少なく、地域的な要因が関係していると思われる。この傾向は、電話相談でもみられる。

一方、新規件数をみると、津、久居、四日市と多く、鈴鹿、伊勢、松阪と続くが、尾鷲、熊野の2保健所管内を除き、差は少なくなっている。

#### <特定専門相談>

##### (7) 思春期相談

思春期は、中学生から大学卒業までの年齢(13才～22才)と考えている。表9に内容別相談件数が示されている。

来所相談は、111件あり、全体の9.7%であり、昨年の227件19.9%に比べると、思春期相談の数、割合共に減少している。内容的には、精神障害リハビリテーションが最も高く次に、学校における問題

が続くのは、昨年と変わらない。

電話相談でも、168件6.8%で昨年の270件、10.4%より減少している。内容的には、精神障害の疑いが最も高く、昨年より増加している。次に、学校における問題、精神障害治療上の問題、家庭における問題と続くが、学校、家庭における問題の相談件数の減少は、学校内あるいは地域で電話相談等、問題を相談する場が増加してきていることがうかがわれる。

表9 思春期内容別相談件数

	来所相談 (%)	テレフォン相談 (%)	計 (%)
総 件 数	111 (100.0)	168 (100.0)	279 (100.0)
A 精 神 障 害 の 疑 い	17 ( 15.3)	48 ( 28.5)	65 ( 23.3)
B 精 神 障 害 治 療 上 の 問 題	3 ( 2.7)	27 ( 16.1)	30 ( 10.8)
C 精 神 障 害 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン	51 ( 46.0)	1 ( 0.6)	52 ( 18.6)
E 学 校 に お け る 問 題	23 ( 20.7)	41 ( 24.4)	64 ( 23.0)
F 職 場 に お け る 問 題	2 ( 1.8)		2 ( 0.7)
G 家 庭 に お け る 問 題	11 ( 9.9)	22 ( 13.1)	33 ( 11.8)
I そ の 他 の 問 題 行 動	3 ( 2.7)	2 ( 1.2)	5 ( 1.8)
J 性 に つ い て の 問 題		5 ( 3.0)	5 ( 1.8)
K 身 体 的 問 題		4 ( 2.4)	4 ( 1.4)
L 知 的 発 育 上 の 問 題		5 ( 3.0)	5 ( 1.8)
O そ の 他	1 ( 0.9)	13 ( 7.7)	14 ( 5.0)

(イ) 老年期の相談

60才以上の老年期の相談は、今年度は132件であり、全体の3.5%となり、昨年47件、1.6%より約3倍に増加している。内容的には、来所相談、テレフォン相談共に精神障害の疑いが54.4%と69.6%でかなり高くなってきている。新規件数の増加もみられるが、今年度は継続件数の増加が例年に比べ高くなってきている。

表 10 老年期内容別相談件数

	来所相談 (%)	テレフォン相談 (%)	計 (%)
総 件 数	53 (100.0)	79 (100.0)	132 (100.0)
A 精 神 障 害 の 疑 い	29 ( 54.7)	55 ( 69.6)	84 ( 63.6)
B 精 神 障 害 治 療 上 の 問 題		8 ( 10.1)	8 ( 6.1)
C 精 神 障 害 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン	1 ( 1.9)		1 ( 0.8)
G 家 庭 に お け る 問 題	16 ( 30.2)	11 ( 13.9)	27 ( 20.4)
I そ の 他 の 問 題 行 動	1 ( 1.9)		1 ( 0.8)
J 性 に つ い て の 問 題			
K 身 体 的 問 題	1 ( 1.9)	1 ( 1.3)	2 ( 1.5)
O そ の 他	5 ( 9.4)	4 ( 5.1)	9 ( 6.8)

(ウ) 酒害相談

酒害相談は、今年度は家族からの電話相談1件のみで、年々減少してきている。これは、アルコール専門病棟をもつ県立病院が隣接市にあることや、各保健所での酒害ケースのコンサルテーションの増加により、直接、当センターに相談がもちこまれることが少なくなっていると思われる。

### Ⅲ. こころの健康センター図書目録

### 三重県こころの健康センター図書目録

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
1	アリエティ分裂病入門	近藤 喬一 訳	星和書店
2	アルコール依存症	斎藤 学 共編	有斐閣
3	アルコール依存の社会病理	大橋 薫 編	星和書店
4	アルコール症 (J. フォート著)	大森 正英 訳	東京大学出版会
5	異常と正常	秋元 波留夫 著	東京大学出版会
6	遺伝精神医学	坪井 孝幸 著	金剛出版
7	医療ソーシャルワーカー論	児島 美都子 著	ミネルウェア書房
8	岩波国語辞典	西尾 実 著	岩波書店
9	狼に育てられた子 (J. A. Lジング著)	中野 善達 訳	福村出版
10	カウンセリングと人間性	河合 隼雄 著	創元社
11	カウンセリングの実際問題	河合 隼雄 著	誠信書房
12	覚醒剤中毒	山下 格 著	金剛出版
13	仮面デプレッションのすべて	筒井 末春 著	新興医学出版社
14	健康と福祉 (厚生行政百問百答)	厚生省 監修	厚生問題研究会
15	現代精神分析 1	小比木 啓吾 著	誠信書房
16	現代精神分析 2	小比木 啓吾 著	誠信書房
17	講座 家族精神医学 1	加藤 正明 共編	弘文堂
18	講座 家族精神医学 2	加藤 正明 共編	弘文堂
19	講座 家族精神医学 3	加藤 正明 共編	弘文堂
20	講座 家族精神医学 4	加藤 正明 共編	弘文堂
21	講座 日本の老人 1 老人の精神医学と心理学	金子 仁郎 共編	垣内出版
22	講座 日本の老人 2 老人の福祉と社会保障	岡村 重雄 共編	垣内出版
23	講座 日本の老人 3 老人と家族の社会学	那須 宗一 共編	垣内出版
24	行動と脳	今村 護郎 著	東京大学出版会
25	最新児童精神医学	高木 隆郎 監訳	ルガール社
26	自己と他者 (R. D レイン著)	志貴 春彦 共訳	みすず書房
27	実務衛生行政六法61年版	厚生省 監修	新日本法規
28	児童精神衛生マニュアル	松本 和雄 共著	日本文化科学社
29	児童の発達と行動	加藤 正明 共訳	医学書院



番号	書名	著者又は訳者	出版社名
30	死にゆく患者と家族への援助	柏木哲夫 著	医学書院
31	社会精神医学の実際 1	加藤伸勝 編	医学書院
32	社会精神医学の実際 2	佐藤亮三 編	医学書院
33	社会精神医学の実際 3	逸見武光 編	医学書院
34	社会精神医学の実際 4	加藤伸勝 編	医学書院
35	生涯各期の心身症とその周辺疾患	並木正義 編	診断と治療社
36	小児メディカルケアシリーズ 6 小児のMBD	上村菊朗 共著	医歯薬出版
37	小児メディカルケアシリーズ 7 登校拒否症	若林貞一郎 著	医歯薬出版
38	小児メディカルケアシリーズ 8 小児のてんかん	福山幸夫 著	医歯薬出版
39	小児メディカルケアシリーズ 13 小児の糖尿病	田中美郷 著	医歯薬出版
40	小児メディカルケアシリーズ 14 自閉症	村田豊久 著	医歯薬出版
41	小児メディカルケアシリーズ 15 小児の心身症	河野友信 著	医歯薬出版
42	小児メディカルケアシリーズ 20 夜尿症	三好邦雄 著	医歯薬出版
43	職場の精神衛生	春原千秋 共編	医学書院
44	事例検討と看護実践	外口玉子 編	看護事例検討会
45	事例検討と患者ケアの展開	外口玉子 編	バオバブ社
46	心身の力動的発達		岩崎学術出版社
47	新精神保健法（法令、通知、資料）	厚生省 監修	中央法規出版
48	心理療法の実際	河合隼雄 編	誠信書房
49	人類遺伝入門	大倉興司 著	医学書院
50	睡眠障害	上田英雄 編	南江堂
51	睡眠障害	山口成良 共著	新興医学出版社
52	ステッドマン医学大辞典	.....	メディカルビュー
53	増補版 精神医学辞典	加藤正明 共編	弘文堂
54	精神医学ソーシャルワーク	柏木昭 編	岩崎学術出版社
55	精神医学と社会療法	秋元波留夫 著	医学書院
56	精神医療の実際	菱山珠夫 共編	金原出版
57	精神衛生と法的問題	高宮澄夫 共訳	牧野出版
58	精神衛生と保健活動	中澤正夫 共編	医学書院
59	精神衛生のための100か条	中沢正夫 著	創造出版

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
60	精神衛生法詳解	公衆衛生法規研究会	中央法規出版
61	精神科のソーシャルスキル	アイリーン山口監修	協同医書出版
62	精神科のリハビリテーション	吉川武彦著	医学図書出版
63	精神科のハーフウェイハウス	加藤正明著	星和書店
64	精神科 MOOK 3 覚せい剤・有機溶剤中毒	加藤伸勝著	金原出版
65	精神科 MOOK 4 境界例	保崎秀夫著	金原出版
66	精神科 MOOK 6 思春期の危機	下坂幸三著	金原出版
67	精神科 MOOK 8 老人期痴呆	長谷川和夫著	金原出版
68	精神疾患ケース・スタディ	森温理著	医学書院
69	精神疾患と心理学	神谷美恵子著	みすず書房
70	精神障害者との出会い	加藤伸勝編	医学書院
71	精神障害者のディケア	加藤正明共編	医学書院
72	精神分析用語辞典	村上仁監訳	みすず書房
73	精神分析セミナー I 精神療法の基礎	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
74	精神分析セミナー II 精神分析の治療機序	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
75	精神分析セミナー III フロイトの治療技法論	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
76	精神分析セミナー V 発達とライフサイクルの視点	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
77	精神分裂病の治療と社会復帰	蜂矢英彦著	金剛出版
78	青年期境界例の治療	成田善弘共訳	金剛出版
79	側頭葉てんかん	宇野正威著	星和書店
80	チューリッヒ学派の分裂病論	人見一彦著	金剛出版
81	てんかん診療の実際	福山幸雄監訳	医学書院
82	断酒学	村田忠良著	星和書店
83	地域精神衛生の理論と実際	加藤正明監修	医学書院
84	日本の中高年 1 (上) 中高年健康管理学	笹野脩一編	垣内出版
85	日本の中高年 1 (下) 中高年健康管理学	笹野脩一編	垣内出版
86	日本の中高年 2 中高年女性学	笹野脩一編	垣内出版
87	日本の中高年 3 収穫の世代	袖井孝子編	垣内出版
88	日本の中高年 4 老人のプロセスと精神障害	戸川行男共編	垣内出版
89	日本の中高年 5 中高年にみる生活危機	本村汎共編	垣内出版

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
90	日本の中高年 6 病める老人を地域でみる	前田 信雄 著	垣内出版
91	ニュー セックス セラピー	野末 源一 訳	星和書店
92	脳と心を考える	井上 英二 編	講談社
93	方法としての事例検討	外口 玉子 著	看護協会出版会
94	保健所精神衛生活動のすすめ方	岡上 和雄 共著	牧野出版
95	夫婦家族療法	鈴木 浩二 訳	誠信書房
96	ボウルビィ母子関係入門	作田 勉 訳	星和書店
97	分裂病家族の研究	井村 恒郎 著	みすず書房
98	メンタルヘルス解説辞典	大原 健志郎 編	中央法規出版
99	森田正馬全集 1	森田 正馬 著	白揚社
100	森田正馬全集 2	森田 正馬 著	白揚社
101	森田正馬全集 3	森田 正馬 著	白揚社
102	ユキの日記	笠原 嘉 編	みすず書房
103	病むということ	江畑 啓介 訳	星和書店
104	ライフサイクルからみた女性の心	石川 中共 訳	医学書院
105	臨床神経心理学	濱中 淑彦 共訳	文光堂
106	臨床体験をつなぐ事例検討	外口 玉子 編	バオバブ社
107	臨床てんかん学	和田 豊治 著	金原出版
108	老人心理へのアプローチ	長谷川 和夫 共著	医学書院
109	老人精神衛生活動を始める人のため	浜田 晋 著	創造出版
110	老人保健の基本と展開	松崎 俊久 編	医学書院
111	老人ぼけの理解と援助	三宅 貴夫 編	医学書院
112	老年期の精神科臨床	室伏 君士 著	金剛出版
113	老年期の精神障害	長谷川 和夫 著	新興医学出版社
114	老年の精神医学	加藤 伸勝 監訳	医学書院

## 63年度以降購入分

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
1	現代精神医学大系 1 A 精神医学総論 I		中山書店
2	現代精神医学大系 1 B 1 a 精神医学総論 II a 1		中山書店
3	現代精神医学大系 1 B 1 b 精神医学総論 II a 2		中山書店
4	現代精神医学大系 1 B 2 精神医学総論 II b		中山書店
5	現代精神医学大系 1 C 精神医学総論 III		中山書店
6	現代精神医学大系 2 A 精神疾患の成因 I		中山書店
7	現代精神医学大系 2 B 精神疾患の成因 II		中山書店
8	現代精神医学大系 2 C 精神疾患の成因 III		中山書店
9	現代精神医学大系 3 A 精神症状学 I		中山書店
10	現代精神医学大系 3 B 精神症状学 II		中山書店
11	現代精神医学大系 4 A 1 精神科診断学 I a		中山書店
12	現代精神医学大系 4 A 2 精神科診断学 I b		中山書店
13	現代精神医学大系 4 B 精神科診断学 II		中山書店
14	現代精神医学大系 5 A 精神科治療学 I		中山書店
15	現代精神医学大系 5 B 精神科治療学 II		中山書店
16	現代精神医学大系 5 C 精神科治療学 III		中山書店
17	現代精神医学大系 6 A 精神症と心因反応 I		中山書店
18	現代精神医学大系 6 B 精神症と心因反応 II		中山書店
19	現代精神医学大系 8 人格異常、性的異常		中山書店
20	現代精神医学大系 9 A 躁うつ病 I		中山書店
21	現代精神医学大系 9 B 躁うつ病 II		中山書店
22	現代精神医学大系 10 A 1 精神分裂病 I a		中山書店
23	現代精神医学大系 10 A 2 精神分裂病 I b		中山書店
24	現代精神医学大系 10 B 精神分裂病 II		中山書店
25	現代精神医学大系 12 境界例、非定型精神病		中山書店
26	現代精神医学大系 15 A 薬物依存と中毒 I		中山書店
27	現代精神医学大系 15 B 薬物依存と中毒 II		中山書店
28	現代精神医学大系 18 老年精神医学		中山書店
29	現代精神医学大系 23 A 社会精神医学と精神衛生 I		中山書店

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
30	現代精神医学大系 23B 社会精神医学と精神衛生Ⅱ		中山書店
31	現代精神医学大系 23C 社会精神医学と精神衛生Ⅲ		中山書店
32	現代精神医学大系 24 司法精神医学		中山書店
33	現代精神医学大系 25 文化と精神医学		中山書店
34	フロイド著作集1巻、精神分析入門(正統)	懸田克躬・高橋義孝訳	人文書院
35	フロイド著作集2巻、夢判断	高橋義孝訳	人文書院
36	フロイド著作集3巻、文化・芸術論	高橋義孝他訳	人文書院
37	フロイド著作集4巻、日常生活の精神病理学他	懸田克躬他訳	人文書院
38	フロイド著作集5巻、性欲論・症例研究	懸田克躬・高橋義孝他訳	人文書院
39	フロイド著作集6巻、自我論・不安本能論	井村恒郎・小比木啓吾他訳	人文書院
40	フロイド著作集7巻、ヒステリー研究他	懸田克躬・小比木啓吾他訳	人文書院
41	フロイド著作集8巻、書簡集	生松敬三他訳	人文書院
42	フロイド著作集9巻、技法・症例篇	小比木啓吾訳	人文書院
43	フロイド著作集10巻、文学・思想篇Ⅰ	高橋義孝・生松敬三他訳	人文書院
44	フロイド著作集11巻、文学・思想篇Ⅱ	高橋義孝・生松敬三他訳	人文書院
45	臨床脳波学	大熊輝雄	医学書院
46	クレベリンの精神医学1巻 精神分裂病	西丸四方・西方甫夫訳	みすず書房
47	クレベリンの精神医学2巻 躁うつ病とてんかん	西丸四方・西方甫夫訳	みすず書房
48	クレベリンの精神医学3巻 心因性疾患とヒステリー	遠藤みどり訳	みすず書房
49	遠藤四郎睡眠研究論集	遠藤四郎	星和書店
50	分裂病の身体療法	宇野昌人他訳	星和書店
51	躁うつ病の精神病理 1	笠原嘉編	弘文堂
52	躁うつ病の精神病理 2	宮本忠雄編	弘文堂
53	躁うつ病の精神病理 3	飯田真編	弘文堂
54	躁うつ病の精神病理 4	木村敏編	弘文堂
55	躁うつ病の精神病理 5	笠原嘉編	弘文堂
56	精神遅滞児(者)の医療・教育・福祉	櫻井芳郎他訳	岩崎学術出版社
57	岩波講座、子どもの発達と教育1、子どもの発達と現代社会		岩波書店
58	岩波講座、子どもの発達と教育3、発達と教育の基礎理論		岩波書店
59	岩波講座、子どもの発達と教育7、発達の保障と教育		岩波書店



番号	書名	著者又は訳者	出版社名
60	分裂病の精神病理 4	萩野恒一編	東京大学出版会
61	青年の精神病理 1	等原嘉・清水将之・伊藤克彦編	弘文堂
62	青年の精神病理 2	小比木啓吾編	弘文堂
63	青年の精神病理 3	清水将之・村上靖彦編	弘文堂
64	講座 生活ストレスを考える 1. 生活ストレスとは何か	石原邦雄・山本和郎・坂本弘編	垣内出版
65	講座 生活ストレスを考える 2. 生活環境とストレス	山本和郎編	垣内出版
66	講座 生活ストレスを考える 3. 家族生活とストレス	石原邦雄編	垣内出版
67	講座 生活ストレスを考える 4. 職場集団にみるストレス	坂本弘編	垣内出版
68	講座 生活ストレスを考える 5. 学校社会のストレス	安藤延男編	垣内出版
69	メラニー・クライン著作集 1. 子どもの心的発達	責任編訳・西岡昌久・牛島定信著	誠信書房
70	メラニー・クライン著作集 3. 愛、罰そして償い	責任編訳・西岡昌久・牛島定信著	誠信書房
71	メラニー・クライン著作集 4. 妄想的・分裂的世界	責任編訳・小比木啓吾・岩崎徹也	誠信書房
72	メラニー・クライン著作集 6. 児童分析の記録 I	山上千鶴子訳	誠信書房
73	アルコール薬物依存	大原健士・田所作太郎編	金原出版株式会社
74	無意識の発見 上	アンリ・エレンベルガー著・木村敏・中井久夫編訳	弘文堂
75	無意識の発見 下	アンリ・エレンベルガー著・木村敏・中井久夫編訳	弘文堂
76	新しい子ども学 3巻 1育つ	小林登・小嶋謙四郎他著	海鳴社
77	新しい子ども学 3巻 2育てる	〃	〃
78	新しい子ども学 3巻 3子どもとは	〃	〃
79	アンナ・フロイド著作集 1 児童分析入門	岩村由美子・中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
80	アンナ・フロイド著作集 2 自我と防衛機制	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
81	アンナ・フロイド著作集 3 家庭なき幼児たち・上	中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
82	アンナ・フロイド著作集 4 家庭なき幼児たち・下	中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
83	アンナ・フロイド著作集 5 児童分析の指針上	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
84	アンナ・フロイド著作集 6 児童分析の指針下	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
85	アンナ・フロイド著作集 7 ハムステッドにおける研究・上	牧田清志・阪本良男・児玉憲興訳	岩崎学術出版社
86	アンナ・フロイド著作集 8 ハムステッドにおける研究・下	牧田清志・阪本良男・児玉憲興訳	岩崎学術出版社
87	アンナ・フロイド著作集 9 児童期の正常と異常	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
88	アンナ・フロイド著作集 10 児童分析の訓練	佐藤紀子・岩崎徹也・辻律子訳	岩崎学術出版社
89	講座、精神の科学 2 パーソナリティ		岩波書店

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
90	異常心理学講座 4巻 1 学派と方法	上居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
91	異常心理学講座 3 人間の生涯と心理	上居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
92	異常心理学講座 4 神経症と精神病1	上居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
93	異常心理学講座 5 神経症と精神病2	上居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
94	井村恒郎著作集 1 精神病理学研究	井村恒郎 著	みすず書房
95	井村恒郎著作集 2 脳病理学・神経症	〃	みすず書房
96	井村恒郎著作集 3 分裂病・家族の研究	〃	みすず書房
97	新しい精神医学	高橋良・梶弘 監修	ヘスコインターナショナル
98	老年の心理と精神医学	金子仁郎 著	金剛出版
99	叢書・精神の科学 1巻精神の幾何学	安永 浩 著	岩波書店
100	叢書・精神の科学 2巻シンファンの病い	小出 浩之 著	岩波書店
101	叢書・精神の科学 4治療の場からみた分裂病	坂本 暢典 著	岩波書店
102	叢書・精神の科学 5正気の発見	内沼 幸雄 著	岩波書店
103	叢書・精神の科学 6心身症と心身医学	成田 善弘 著	岩波書店
104	叢書・精神の科学 7意識障害の人間学	河合 逸雄 著	岩波書店
105	叢書・精神の科学 8境界事象と精神医学	鈴木 茂 著	岩波書店
106	叢書・精神の科学 10精神と身体	遠藤 みどり 著	岩波書店
107	叢書・精神の科学 11脳と言語	野上 芳美 著	岩波書店
108	叢書・精神の科学 12貧困の精神病理	大平 健 著	岩波書店
109	叢書・精神の科学 13「非行」が語る親子関係	佐々木讓・石附敦 著	岩波書店
110	井村恒郎・人と学問	懸田 克躬 編	みすず書房
111	人間性心理学への道(現象学からの提言)	村上 英治 編	誠信書房
112	生きること かかわること	村上 英治 監修	名古屋大学出版会
113	人格の対象関係論 (フェッバーン著)	山口 泰司 訳	文化書房博文社
114	臨床的对象関係論 (フェッバーン著)	山口泰司・原田千恵子 訳	文化書房博文社
115	性的例錯 (メダルト・ボス著)	村上仁・吉田和夫 訳	みすず書房
116	性の逸脱 (ストー著)	山口 泰司 訳	理想社
117	子どもの治療相談①適応障害・学業不振・神経症	ウイニェット著・橋本雅雄 翻訳	岩崎学術出版社
118	子どもの治療相談②反社会的傾向・盗みと愛情剝奪	ウイニェット著・橋本雅雄 翻訳	岩崎学術出版社
119	摘画による心の診断	岩井 寛 著	日本文化科学社

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
120	家族療法 (ジェイ・ヘイリィ著)	佐藤悦子 訳	川島書店
121	夫婦家族療法! (Dグリック・D・Rケスラー著)	鈴木浩二 訳	誠信書房
122	集団精神療法の理論と実際	池田由子 著	医学書院
123	心理面接の技術	前川重治 著	慶応通信
124	コミュニティ心理学	山本和郎 著	東京大学出版会
125	日本の精神障害者	岡上和雄・大島巖・荒井元博編	ミネルウァ書房
126	日常性の精神医学 (ヴァン・デン・ベルグ著)	早坂泰次郎・矢崎好子 訳	川島書店
127	表情病	阿部正 著	誠信書房
128	現代精神医学の概念 (サリヴァン著)	中井久夫・山口隆 訳	みすず書房
129	精神医学的面接 (サリヴァン著)	中井久夫・山口隆 訳	みすず書房
130	発想の航跡	神田橋 條 治	岩崎学術出版社
131	身体の心理学 (P・シルダー著)	稲永和豊 監修	星和書店
132	岩波 心理学小辞典	宮城音弥 編	岩波書店
133	精神病棟の20年	松本昭夫 著	新潮社
134	精神障害・薄弱百問百答	児島美都子 監修	中央法規出版
135	アメリカの精神医療	仙波恒雄 監訳・解説	星和書店
136	新精神保健法	厚生省保健医療局精神保健課 監修	中央法規出版
137	適正飲酒ガイドブック		アルコール健康医学協会
138	痴呆老人対策	痴呆性老人対策推進部事務局 編	中央法規出版
139	ぼけ老人の家庭介護手引き		厚生環境問題研究会
140	だれでも精神科治療	小池清廉 著	ルガール社
141	日本人の深層分析1 母親の深層	馬場謙一・小川捷之他 編	有斐閣
142	日本人の深層分析2 父親の深層	馬場謙一・小川捷之他 編	有斐閣
143	日本人の深層分析3 エロスの深層	馬場謙一・小川捷之他 編	有斐閣
144	日本人の深層分析4 攻撃性の深層	馬場謙一・小川捷之他 編	有斐閣
145	日本人の深層分析5 夢と象徴の深層	馬場謙一・小川捷之他 編	有斐閣
146	日本人の深層分析6 創造性の深層	馬場謙一・小川捷之他 編	有斐閣
147	日本人の深層分析7 病める心の深層	馬場謙一・小川捷之他 編	有斐閣
148	日本人の深層分析9 子どもの深層	馬場謙一・小川捷之他 編	有斐閣
149	日本人の深層分析10 青年期の深層	馬場謙一・小川捷之他 編	有斐閣



番号	書名	著者又は訳者	出版社名
150	日本人の深層分析11 老いとるもの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
151	思春期の対象関係論	牛島定信	金剛出版
152	痴呆老人の理解とケア	室伏君士	金剛出版
153	薬物依存	加藤雄司	金剛出版
154	分裂病者の行動特性	昼田源四郎	金剛出版
155	老年期精神障害の臨床	室伏君士編	金剛出版
156	E.ミンコフスキー 生きられる時間 1	中江育生・清水誠訳	みすず書房
157	E.ミンコフスキー 生きられる時間 2	中江育生・清水誠・大橋博司訳	みすず書房
158	E.ミンコフスキー 精神分裂病	村上仁訳	みすず書房
159	異常心理学講座 第9巻	土井健郎・笠原雄・宮本定雄・木村敏責任編集	みすず書房
160	E.クレベリン <精神医学>2 躁うつ病とてんかん	西丸四方・西丸甫夫訳	みすず書房
161	精神科看護とデイ・ケア	加藤政子・松元信子訳	医学書院
162	精神科看護の展開	外間邦江・外口玉子訳	医学書院
163	精神科看護と福祉	加藤政子・松元信子訳	医学書院
164	病院精神医療の展開	監修 加藤伸勝	医学書院
165	PS.Powers,R.C.Fernandez 神経性食欲不振症過食症の治療	監訳保崎秀夫・高木洲一郎	医学書院
166	R.K.コーニン編 ハンドブックグループワーク	馬場禮子 監訳	岩崎学術出版社
167	精神分析を語る	西園呂久	岩崎学術出版社
168	精神医学図書総覧	小林司編	岩崎学術出版社
169	ウォン教授の集団精神療法セミナー グループリーダーのあり方	秋山剛訳	日本集団精神療法学会第2回ウォン教授集団精神療法セミナー実行委員会発売:星和書店
170	ウォン教授の集団精神療法セミナー	山口隆・松原太郎監修	日本集団精神療法学会発売:星和書店
171	精神医療における芸術療法	徳田良仁・式場聡	牧野出版
172	マルコム・レコーダー 裁かれる精神医学	秋元波留夫・大木善和	創造出版
173	D.W.ウィニコット 子どもと家庭	牛島定信 監訳	誠信書房
174	医心理学	黒田謙一・小片寛・藤沢千尋・巽信夫	朝倉書店
175	心の病気と現代	秋元波留夫	東京大学出版会
176	精神障害者の社会復帰	寺谷隆子編	中央法規出版
177	ストレス診療ハンドブック	河野友信・吾郷晋浩	メディカルサイエンス インターナショナル
178	生活と福祉 別冊事例集 アルコール依存症 および精神障害特集		全国社会福祉協議会

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
179	バトグラフィ双書3 宮沢賢治	福島章	金剛出版
180	バトグラフィ双書6 ドフトエフスキー	萩野恒一	〃
181	バトグラフィ双書8 ヘミングウェイ	伊藤高麗夫	〃
182	バトグラフィ双書9 志賀直哉	鹿野達男	〃
183	バトグラフィ双書10 川端康成	稲村博	〃
184	バトグラフィ双書12 高村光太郎	町沢静夫	〃
185	精神科MOOK 2 家族精神医学	編集企画 西園昌久	金原出版
186	〃 5 アルコール関連障害	〃 加藤正明	〃
187	〃 9 精神分裂病の治療と予後	〃 山下格	〃
188	〃 11 身体疾患と精神障害	〃 原田憲一	〃
189	〃 12 対人恐怖症	〃 高橋徹	〃
190	〃 13 躁うつ病の治療と予後	〃 更井啓介	〃
191	〃 14 青少年の社会病理	〃 藤原豪	〃
192	〃 15 精神療法の実際	〃 吉松和哉	〃
193	〃 16 自殺	〃 春原千秋	〃
194	〃 17 法と精神医療	〃 逸見武光	〃
195	〃 18 家庭と学校の精神衛生	〃 山田通夫	〃
196	〃 19 森田療法—理論と実際	〃 大原健士郎	〃
197	〃 20 精神科救急医療	〃 山崎敏雄	〃
198	〃 21 睡眠の病態	〃 菱川泰夫	〃
199	ヤスバース精神病理学研究	藤森英之 訳	みすず書房
200	アルコール依存症の精神病理	斎藤学	金剛出版
201	精神分析治療の進歩	西園昌久	〃
202	非行の病理と治療	石川義博	〃
203	家庭内暴力	若林慎一郎・本城秀次	〃
204	性的異常の臨床	高橋進・柏瀬宏隆 編	〃
205	分裂病と構造	小出浩之	〃
206	心理臨床家の目指すもの	台利夫・新田健一・長谷川係一郎	〃
207	C.M アンダーソン・D.J. レイス・G.E. ハガティ 著 分裂病と家族上	鈴木浩二・鈴木和子 監訳	〃
208	C.M アンダーソン・D.J. レイス・G.E. ハガティ 著 分裂病と家族下	鈴木浩二・鈴木和子 監訳	〃

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
209	精神分裂治療の展開	西園昌久	金剛出版
210	DSM-Ⅲ-R 精神障害の分類と診断の手引き第2版	高橋三郎・花田耕一・藤縄昭	医学書院
211	内因性精神病	吉永五郎	医学書院
212	Wブランケンブルグ自明性の喪失	木村敏・岡本進・島弘嗣共訳	みすず書房
213	精神保健実践講座 ①精神保健の基礎理解	加藤正明監・古川武彦・佐野光正編	中央法規出版
214	②精神保健と精神科医療	加藤正明監・蜂矢英彦・南雲与志郎編	〃
215	③精神保健とリハビリテーション活動	加藤正明監・蜂矢英彦・岡上和雄編	〃
216	④精神保健の社会資源	加藤正明監・村田信男・大江基編	〃
217	⑤地域精神保健活動の理解と実際	加藤正明監・村田信男・藤井克徳編	〃
218	⑥精神保健と家族問題	加藤正明監・滝沢武久・村田信男編	〃
219	⑦精神保健教育のあり方	加藤正明監・古川武彦・佐野光正編	〃
220	⑧精神保健行政と生活保障	加藤正明監・見浦康文・滝沢武久編	〃
221	⑨精神保健の法制度と運用	加藤正明監・小松源助・林幸男編	〃
222	⑩精神保健関係資料集	加藤正明監・見浦康文・中村俊哉編	〃
223	精神保健法詳解	精神保健法規研究会 編集	〃
224	精神科デイケア	精研デイケア研究会編・代表柏木昭	岩崎学術出版社
225	日本人の深層分析12 現代社会の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
226	精神科MOOK 26 精神科における医療と福祉	編集企画 蜂谷英彦	金原出版
227	援助困難な老人へのアプローチ	根本博司 編集	中央法規
228	分裂病を生きる	安斎三郎 編著	日本評論社
229	臨床ケースワーク	武田建 荒川義子	川島書店
230	臨床描画研究 I 描画テストの読み方	家族画研究会編	金剛出版
231	臨床描画研究 II 家族画による診断と治療	〃	金剛出版
232	臨床描画研究 III 思春期、青年期の病理と描画	〃	金剛出版
233	臨床描画研究 IV 描画の臨床的活用	〃	金剛出版
234	臨床描画研究 V イメージと臨床	〃	金剛出版
235	臨床描画研究Annex1 家族イメージとその投影	〃	金剛出版
236	②私の表現病理学	〃	金剛出版
237	③描画を読むための理論背景	〃	金剛出版
238	治療構造論	岩崎徹也	岩崎学術出版社

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
239	精神障害者福祉	田村健二、坪上宏、浜田晋、岡上和雄	相川書房
240	過食の病理と治療	下坂幸三 編	金剛出版
241	精神医学は対人関係論である H. S. サリヴァン著	中井久夫、宮崎隆吉、高木敬三	みすず書房
242	分裂病と家族の感情表出 J. レフ C. ヴォーン著	三野善夫、牛島定信 訳	金剛出版
243	医療の人類学	波平恵美子 監訳	海鳴社
244	思春期やせ症の家族	福田俊一 監訳	星和書店
245	家族療法の理論と実際 I	大原健士郎、石川元	星和書店
246	家族療法の理論と実際 II	大原健士郎、石川元	星和書店
247	戦略的心理療法の展開 ジョンヘイリー著	高石昇、横田恵子 訳	星和書店
248	「うつ」を生かす	太野 裕	星和書店
249	青年期精神衛生事例集	清水將之、北村陽英	星和書店
250	感情病および精神分裂病用面接基準	保崎秀雄	星和書店
251	精神科のロングターム、ケア	山田義夫、小口徹	協同医書出版社
252	家族療法ケース研究2 登校拒否	鈴木浩三	金剛出版
253	方法としての面接	上居健郎	医学書院
254	自我同一性研究の展望(青年期)	鎌井八郎、山本方、宮下一博	ナカニシヤ
255	精神障害者の職業リハビリテーション	岡上和男、松為信男、野中猛	中央法規出版
256	自立のための援助論	久保絃章	川島書店
257	患者家族会のつくり方と進め方	外口玉子	川島書店
258	セルフ・ヘルプ・グループの理論と実際	久保絃章	川島書店
259	家族変容の技法をまなぶ G.R. バターソン	大淵憲一、森木豊	川島書店
260	精神を病むということ	秋元波留夫、上田敏	医学書院
261	増補 精神発達と精神病理	北田稔之助、馬場謙一、下坂幸三	金剛出版
262	性の臨床	河野友信	医学書院
263	中年期の精神医学	飯田 眞	医学書院
264	医学モデルを超えて E. G. ミシュラー著	尾崎新、三宅由子、丸井英二	星和書店
265	老人期痴呆の医療と看護	室伏君士	金剛出版
266	精神医学4 強迫神経症	遠藤みどり、稲浪正充	みすず書房
267	青年期 美と苦悩	大東祥孝、松本雅彦 新宮一成、山中康裕	金剛出版
268	思春期精神保健相談		財団法人公衆衛生協会

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
269	人と場をつなぐケア	外 口 玉 子	医 学 書 院
270	精神分裂病研究の進歩	藤 縄 昭	星 和 書 店
271	「家族」と治療する	石 川 元	未 来 社
272	初期分裂病	中 安 信 夫	星 和 書 店
273	自己愛と境界例 J. F. マスターソン著	富山幸佑、尾崎新 訳	星 和 書 店
274	入院集団精神療法	山口隆、小谷英文	へるす出版
275	精神科コンサルテーションの技術 L. S. グリックマン著	荒木志朝、柴田史朗、西浦研志 訳	岩崎学術出版社
276	最近精神衛生（その理論と応用）	高 木 四 郎	慶 応 通 信
277	新中間管理職のメンタルヘルス	佐々木 時 雄	弘 文 堂
278	新版 精神衛生	小杉正太郎 編著	川 島 書 店
279	職場のメンタルヘルス	加藤正明、精神衛生普及会 編	保 健 同 人 社
280	メンタルヘルス	加 藤 正 明	創 元 社
281	ライフサイクル精神医学	西 園 昌 久	医 学 書 院
282	コアト自己心理学セミナー I ミリアム・エルソン編	伊 藤 洸 監訳	金 剛 出 発
283	遊びリテーション	竹内孝仁、稲川利光 三好春樹、村上量紀	医 学 書 院
284	青年期の精神科臨床	清 水 將 之	金 剛 出 版
285	プロイラー精神医学総論	切 替 辰 哉	中 央 洋 書 出 版
286	生涯発達学 R. Mラーナー N. Aブッシュ ロスナガル編	上 田 礼 子 訳	岩崎学術出版
287	電話相談の基礎と実際	長谷川浩一 編集 橋浜いのちの電話 調査研究部 編	川 島 書 店
288	地図は現地ではない	中 沢 正 夫	萌 文 社
289	岩波講座 子どもの発達と教育4 幼年期発達段階と教育1		岩 波 書 店
290	精神医学の臨床研究 サリヴァン	中井久夫、山口直彦、松川周吾 訳	み ず ず 書 房
291	治療のダイナミックス	轟 俊 一、渡 辺 登	岩 波 書 店
292	心理療法の諸原則 上 I. Bワイナー著	秋谷たつ子、小川俊樹、中村伸一	星 和 書 店
293	心理療法の諸原則 下 I. Bワイナー著	秋谷たつ子、小川俊樹、中村伸一	星 和 書 店
294	錯覚と脱錯覚	北 山 修	岩崎学術出版
295	サイコセラピー練習帳	丸 田 俊 彦	岩崎学術出版
296	眠らぬダイヤル（いのちの電話）	稲村博、林義子、斉藤友紀雄	新 曜 社
297	分裂病の精神病理 16	土 居 健 郎	東京大学出版社
298	森田式精神健康法	長 谷 川 洋 三	三 笠 書 房



番号	書名	著者又は訳者	出版社名
299	一般医のための森田療法	樋口正元	太陽出版
300	森田療法のすすめ	高良武久	白揚社
301	続日本 収容所列島の60年	竹村堅次	近代文芸社
302	境界例の臨床	牛島定信 著	金剛出版
303	グループサイコセラピー	川室優 訳	金剛出版
304	無意識1 無意識へのプロレゴメナ	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
305	無意識2 無意識と言語	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
306	無意識3 神経学と無意識	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
307	無意識4 無意識と精神医学的諸問題	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
308	無意識5 無意識の社会学、哲学への影響	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
309	ある神経病者の回想録 デニエル・パウル・シュレーパー著	渡辺哲夫 訳	筑摩書房
310	東洋の狂気誌	小田 晋	思索社
311	分裂病と他者	木村 敏	弘文堂
312	精神分析と仏教	武田 専	新潮選書
313	死に急ぐ子供たち シンシア・R. フェファー	高橋祥友 訳	中央洋書出版部
314	引き裂かれた子供たち	池川由子	弘文堂
315	妻が危ない	池田山子	〃
316	心理療法論考	河合 隼 雄	新曜社
317	老いのソウロロギー (魂学)	山中 康 裕	有斐閣
318	陽性陰性症状評価尺度	山田、増井、菊本 訳	星和書店
319	老人虐待	金子 善 彦	星和書店
320	正常な「老い」と異常な「老い」	清田 一 民	星和書店
321	精神分裂病治療のストラテジー	浅井昌弘、八木剛平	国際医書出版
322	十代の四季	上 田 基	ミネルヴァ書房
323	児童精神保健	島田照三 森田啓吾 著 横山桂子 著	ミネルヴァ書房
324	別冊発達⑨乳幼児精神医学への招待	小此木啓吾 渡辺久子編	ミネルヴァ書房
325	老人福祉とは何か	一番ヶ瀬康子 十古林佐知子著	
326	高齢化社会と介護福祉	一番ヶ瀬康子 著 仲村優一 北川隆吉編	ミネルヴァ書房
327	現代人の精神異常	福田 哲 雄 著	ミネルヴァ書房
328	ゆれうごく家族	金田利子 杉浦	ミネルヴァ書房

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
329	ストレスの心理学	リチャード・S・ラザルス スーザン・フォルクマン著	実務教育出版
330	逆転移1	ハロルド・F・サルーズ 杉本雅彦他訳	みすず書房
331	外来精神医学から	笠原嘉	みすず書房
332	家族療法ケース研究④	牧原浩著	金剛出版
333	家族に学ぶ家庭療法	鈴木浩二監修	金剛出版
334	非行の臨床	石川義博著	金剛出版
335	臨床精神医学講義	口大精神神経科	星和書店
336	自己愛と境界例	ジェームス・F・マスターソン著 富山幸佑 尾崎新著	早和書店
337	小児精神医学	新井清二郎 長畑正道他著	中山書店
338	老年期の性	大工原秀子	ミネルヴァ書房
339	性ぬきに老後は語れない	大工原秀子	ミネルヴァ書房
340	精神科リハビリテーション	J・K・ウイング B・モリス編 高木隆郎監訳	岩崎学術出版社
341	異常心理学講座⑥	土居健郎 笠原嘉 宮本忠雄 木村敏責任編集	みすず書房
342	中井久夫著作集 1 分裂病	中井久夫	岩崎学術出版社
343	” 2 治療	”	”
344	” 3 社会・文化	”	”
345	” 4 治療と治療関係	”	”
346	” 5 病者と社会	”	”
347	” 6 個人とその家族	”	”
348	” 別巻1 中井久夫共著論文集	山中康裕編	”
349	” 別巻2 H・NAKAI風景構成法	山口直彦編	”
350	コンサルテーション・リエゾンの実際	荒木富士夫編著	岩崎学術出版社
351	職場と心の健康 ①企業と産業精神衛生	財団法人精神分析学振興財団編 岩崎徹也 小此木啓吾 武田専監修	東海大学出版会
352	” ②企業と中高年	”	”
353	” ③企業と家族	”	”
354	” ④企業と転職	”	”
355	” ⑤個人と性格	”	”
356	安永治著作集 1 ファントム空間論	安永治	金剛出版
357	” 2 ファントム空間論の発展	”	”
358	” 3 方法論と臨床概念	”	”

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
359	精神科リハビリテーションの実際 1	F・N・ワッツ D・H・ベネット編 福島裕監訳	岩崎学術出版社
360	精神科リハビリテーションの実際 2	F・N・ワッツ D・H・ベネット編 福島裕監訳	岩崎学術出版社
361	精神科難治療例 私の治療	融道男編	中外医学社
362	これからの精神保健・精神医療	谷中輝雄編	やどかり出版
363	十亀史郎講演集1	十亀記念事業委員会	伊勢出版
364	地図は現地ではない	中沢正夫	明文社
365	心理劇とその世界	増野肇	金剛出版
366	サイコドラマのすすめ方	増野肇	金剛出版
367	異常心理学講座 第十巻 文化・社会の病理	土居健郎他	みすず書房
368	気分変動症	S・Wバートン II・Sアキスアル	金剛出版
369	幻覚・妄想の臨床	濱中淑彦 河合逸雄 他編集	医学書院
370	子どもの心の臨床	中沢たえ子 著	岩崎学術出版社
371	シリーズ現代の病4 職場の病	河野友信 編集	医学書院
372	精神保健と看護のための100か条	中沢正夫	明文社
373	精神保健「家族教室」	全国精神保健相談者会他 田中英樹 他	明文社
374	精神保健マニュアル	吉川武彦	南山堂
375	精神分裂病研究の進歩 1991 Vo2 No1	精神分裂病研究編集委員会	星和書店
376	” 1992 Vo3 No1	”	”
377	臨床精神医学論集	土居健郎教授還暦記念論文集刊行会	
378	集団精神療法の進め方	山口隆 中川賢幸 編	星和書店
379	臨床心理学体系 ①臨床心理学の科学的基礎	河合逸雄 福島章 他編集	金子書房
380	” ②パーソナリティ	小川捷之 託摩武俊 他編集	”
381	” ③ライフサイクル	小川捷之 斉藤久美子 他編集	”
382	地域精神保健活動の実際	吉川武彦 編	金剛出版
383	安永浩著作集 症状論と精神療法	安永浩	”
384	精神保健福祉の展開	岡上和雄 編	相川書房
385	臨床心理学大系4 家族と社会	岡堂哲雄、鎌幹八郎 馬場禮子 編集	金子書房
386	” 5 人格の理解①	安香宏、田中富士夫 福島章 編集	”
387	” 6 ” ②	村瀬孝雄、大塚義孝 安香宏 編集	”
388	” 7 心理療法①	小此木啓吾、成瀬悟策 福島章 編集	”
389	” 8 ” ②	上里一郎、鎌幹八郎 前田重治 編集	”



番号	書名	著者又は訳者	出版社名
390	臨床心理学大系9 心理療法③	河合隼雄、水島忠一、 村瀬孝雄 編集	金子書房
391	“ 10 適応障害の心理臨床	安井健三、小川捷之、 安香 宏 編集	“
392	“ 11 精神障害の心理臨床	福島章、村瀬孝雄、 山中康裕 編集	“
393	シリーズ精神科症例集① 精神分裂病I-精神病理-	木村 敏 責任編集	中山書店
394	分裂病の精神病理と治療②	湯浅修一 編	星和書店
395	“ ③	中井久夫	“
396	リバーマン実践的精神科リハビリテーション	ポール・リバーマン 安西信雄・池淵恵美 監訳	創造出版
397	メンタルヘルスシリーズ サラリーマン・アパシー	延島信也 編	同朋舎
398	“ 働く女性のメンタルヘルス	馬場房子 編	“
399	転換期に立つ精神病院	ゆうゆ編集部・氏家憲章	明文社
400	狂気の社会史	ロイ・ポーター著 日羅公和訳	法政大学出版局
401	こころの病いと家族のこころ	滝沢武久	中央法規出版
402	老年性精神疾患	エミール・クレベリン 著 伊達 徹 訳	みすず書房
403	河合隼雄著作集 5 昔話の世界	河合隼雄	岩波書店
404	“ 6 子どもの宇宙	“	“
405	“ 13 生きることと死ぬこと	“	“
406	地域精神保健実践シリーズ② 保健デイケア	全国精神保健相談員会編 田中英樹 ほか著	明文社
407	慢性疾患と家族	フロマクレンツ/キャロル・M・アンダーソン編 野中猛・白石弘巳 監訳	金剛出版
408	精神科ディケアマニュアル	宮田 勝	“
409	脳障害者の心理療法	小山充道	北海道大学図書刊行会
410	憑作と精神病	高畑直彦、七田博文、内潟一郎	“
411	児童虐待(危機介入編)	斉藤 学	金剛出版
412	これからの地域保健	厚生省健康政策局計画課監修	中央法規出版
413	子どもの虐待防止	児童虐待防止制度研究会編	朱鷺書房
414	老いの心と臨床	竹中星郎	診療新社
415	Alcoholism: Origins and Outcome	R.M.Rose・J.E.Barrett	RAVEN
416	Handbook of Social Psychiatry	A.S.Henderson・G.Burrows	ELSEVIER
417	Mental Health in the Elderly	H.Häfner・G.Moschel N.Sartorius	Springer-Verlag
418	Stress testing Edition 3	F.A.Davis.	M.H.ELLESTAD
419	Hysteria and Related Mental Disorders	D.W.Abse	WRLGHT
420	Social Support, Life Events, and Depression	N.Lin・A.Dean・Alfred Dean W.N.Ensel	ACADEMIC PRESS

〈定期刊行物〉

精神医学	医学書院
日本社会精神医学会	星和書店
アルコール医療研究	〃
集団精神療法	日本集団精神療法学会
ソーシャルワーク研究	相川書房
季刊精神療法	金剛出版
The American Journal of Psychiatry	Official Journal of the American Psychiatric Association
児童・青年精神医学とその近接領域	日本児童青年精神医学会
老年精神医学雑誌	ワールドプランニング
心理学評論 (Vol32 No1~4, Vol33 No1~4)	心理学評論刊行会
心理臨床	星和書店
日本精神病院協会雑誌	日本精神病院協会
臨床精神医学	国際医書出版
精神障害と社会復帰	やどかり出版
公衆衛生	医学書院
季刊ゆうゆう	萌文社
週刊保健衛生ニュース	社会保険実務研究所
季刊職リハネットワーク	日本障害者雇用促進協会
JDジャーナル	日本障害者リハビリテーション協会
ぜんかれん	全国精神障害者家族会連合会

〈ビデオテープ〉

マイクロカウンセリングⅠ 基本的かかわり技法	前編
〃	Ⅱ
〃	〃
〃	後編
老人ボケを防ぐには	
社会人としての言葉使いの基本	
作業療法 生活を拓ける治療と援助	
老人と飲酒	
アルコールと循環器	
肝臓とアルコール代謝	
あと一杯が飲めるか	
与越市つくしの里の実践から	
地域ぐるみでおこなわれている社会復帰活動を紹介する	
こころの病をかかえて——精神障害者は今	
病院を出て街で働きたい 報道特集 (1987年)	
君は空の青さを知っているか——精神障害者が地域で生きていくために	
今ここに生きる——精神障害者とともに	
災害と心のケアハンドブック	

〈精神保健啓発用パネル〉

I 心の健康づくりシリーズ (7枚)

心の健康とは

心の病気にかかる人はどれくらい?

心とからだ

ライフサイクルと心の病

心の問題はどこへ相談すればいいの?

心の健康づくり

生活環境とストレス

II 社会復帰シリーズ (7枚)

社会復帰のための4要素

ディケアとは

共に生きる社会

社会復帰のための社会資源-1. 制度-

” -2. 施設と活動-

共同作業所とは

家族会活動

III (ライフサイクル) 思春期シリーズ (5枚)

思春期の心

親ばなれ

思春期の心の病のサイン

思春期のからだ

子ばなれ

IV (ライフサイクル) 老年期シリーズ (10枚)

老年期の心と体の特徴

痴呆とは①

仮性痴呆

痴呆の介護①

痴呆はどうして起こる

老年期の心の病 (精神障害)

痴呆とは②

痴呆の予防

痴呆の介護②

健やかなる老後

---

平成6年度版 こころの健康センター所報

平成7年9月 発行

三重県こころの健康センター  
(精神保健福祉センター)

〒514-11 久居市明神町 2501-1  
三重県久居庁舎1階  
電話 0592-55-2151

---